

ニ於テハ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得ス

- 二 職員室、事務室、宿直室、器械室、標本室其ノ他公立學校長ニ於テ著シキ支障アリト認ムル設備ニ付テハ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得ス
- 三 使用ヲ許可スヘキ期間ハ選舉ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル日ヨリ選舉ノ期日ノ前日迄トス
- 四 使用ノ時間ハ一回ニ付五時間ヲ超ユルコトヲ得ス

第八十一條ノ二 公立學校ノ使用ヲ許可シタル場合ニ於テ第七十八條ノ

二ノ規定ニ依ル申請アルトキハ公立學校管理者ハ照明、演壇、聽衆席等演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設(暖房ノ施設ヲ除ク)ヲ爲スベシ但シ第八十一條ノ三ノ規定ニ依ル費用ノ納付ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ規定ニ依リ爲スベキ施設ニ關シ其ノ程度其ノ他必要ナル事項ハ公立學校管理者ニ於テ地方長官ノ承認ヲ得テ之ヲ定メ豫メ告示スベシ天災其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキハ公立學校管理者ハ第一項ノ規定ニ依ル施設ヲ爲サザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ公立學校管理者ハ

直ニ其ノ旨ヲ第七十八條ノ二ノ規定ニ依ル申請者ニ通知シ併セテ之ヲ

地方長官ニ報告スベシ

公立學校ノ使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ第一項ノ規定ニ依ル施設ノ公營ヲ受クル場合ト雖モ自ラ演說會開催ノ爲ニスル施設ヲ加フルコトヲ妨ゲズ

第八十一條ノ三ノ公立學校ノ使用ノ許可アルタル場合ニ於テハ第七十八

條ノ二ノ規定ニ依ル申請者ハ前條第三項ノ場合ヲ除クノ外其ノ使用ノ日ノ前日迄ニ前條第一項ノ規定ニ依ル施設ノ公營ニ要スル費用ヲ當該公立學校管理者ニ納付スベシ但シ第七十二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ國庫ニ於テ其ノ費用ヲ負擔スベキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ規定ニ依ル納付スベキ費用ノ額ハ公立學校管理者ニ於テ内務大臣ノ定ムル規準ニ從ヒ地方長官ノ承認ヲ得テ之ヲ定メ豫メ告示スベシ第一項ノ規定ニ依ル納付金ハ前條第三項ノ場合ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ公立學校ノ使用ノ日ノ前日迄ニ申請者ヨリ其ノ使用ヲ爲サズ

若ハ其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ヲ受ケザル
ベキ旨ヲ當該公立學校管理者ニ申出デタルトキハ之ヲ還付スベシ
第七十八條ノ二第三項及第四項ノ規定ハ第一項及前項ニ規定スル期限
ニ關シ之ヲ準用ス

第八十二條 道廳府縣公立學校管理者タル地方長官ハ前七條ニ規定スル
管理者ノ權限ヲ學校長ニ委任スルコトヲ得
地方長官前項ノ委任ヲ爲シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第八十三條 前八條ノ規定ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用及其ノ使
用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ニ之ヲ準用ス但シ公立
學校長ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ第八十一條中公立學校長トアル
ハ管理者トス

第八十四條ノ料金カ演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ニ要スル費
用ヲモ包含スルモノナル場合ニ於テハ第八十一條ノ三ノ規定ノ準用ニ
付テハ其ノ料金ヲ以テ第八十一條ノ二第一項ノ規定ノ準用ニ依ル施設

ノ公營ニ要スル費用ト看做ス

第八十四條 第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ付一般ニ使用ニ關スル
料金徴收ノ定アルモノニ關シテハ其ノ料金ヲ徴收スルコトヲ妨ケス

第八十五條 公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ノ準備及其
ノ後片付等ニ要スル費用ハ使用ノ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲
ニ必要ナル施設ノ公營ヲ受ケタル場合ニ於テハ公營ニ伴フ前項ノ費用ハ
其ノ施設ノ公營ニ要スル費用ニ包含セラレルモノトス

公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ因リ其ノ設備ヲ損傷
シタルトキハ使用ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ賠償シ又ハ原狀ニ復
スヘシ

第八十六條 地方長官ハ公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ管理
者カ本章ノ規定ニ違反シテ又ハ不當ニ使用ノ許可ヲ爲シ又ハ爲ササル
トキハ使用ノ許可ヲ取消シ又ハ使用ノ許可ヲ爲スコトヲ得

地方長官ハ公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ管理者ガ第八十一條ノ二第二項若ハ第八十一條ノ三第二項又ハ此等ヲ準用スル第八十三條ノ規定ニ依リ爲スベキ事項ヲ爲サザルトキハ當該管理者ニ代リ之ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 地方長官ハ選舉運動ノ爲ニスル公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用及其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ニ關シ本章ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十二章ノ二 選舉公報ノ發行

第八十七條ノ二 衆議院議員選舉法第四百十條第四項ノ規定ニ依ル文書(之ヲ選舉公報ト稱ス)ハ總選舉毎ニ一回之ヲ發行スベシ

第八十七條ノ三 選舉公報ハ選舉區毎ニ之ヲ發行スベシ

特別ノ事情アル選舉區又ハ其ノ一部ニ關シテハ選舉公報ヲ發行セズ

前項ノ規定ニ依リ選舉公報ヲ發行セザル區域ハ内務大臣之ヲ定ム

第八十七條ノ四 議員候補者選舉公報ニ政見等ノ掲載ヲ受ケントスルト

キハ地方長官ノ指定スル期日迄ニ其ノ掲載文ヲ具シ文書ヲ以テ地方長官ニ之ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ掲載文ハ字數三千ヲ超ユルコトヲ得ズ

地方長官ハ總選舉ノ期日ノ公布アリタル後直ニ第一項ノ期日ヲ告示スベシ

第八十七條ノ五 前條第一項ノ申請アリタルトキハ地方長官ハ其ノ掲載

文ヲ原文ノ儘選舉公報ニ掲載スルコトヲ要ス

前條第一項ノ掲載文ガ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ之ヲ選舉公報ニ掲載セザルコトヲ得其ノ指揮ヲ請フノ暇ナキトキハ地方長官ハ自己ノ意見ニ依リ之ヲ選舉公報ニ掲載セザルコトヲ得

前條第一項ノ掲載文ノ字數同條第二項ノ制限ヲ超ユルトキハ地方長官ハ其ノ超過スル部分ヲ選舉公報ニ掲載セザルモノトス

第八十七條ノ六 選舉公報ハ議員候補者毎ニ別ノ用紙ヲ以テ之ヲ調製スベシ

第八十七條ノ七 選舉公報ハ各議員候補者ノ分ヲ編綴セズシテ一括シ豫
メ地方長官ノ指定スル期日迄ニ當該選舉區ニ於ケル選舉人名簿ニ記載
セラレタル者ニ對シ名簿記載ノ住居ニ依リ郵便ヲ以テ之ヲ發送スベシ
地方長官ハ總選舉ノ期日ノ公布アリタル後直ニ前項ノ期日ヲ告示スベシ
第八十七條ノ八 衆議院議員選舉法第七十一條第一項ノ規定ニ依リ投票
ヲ行フコトヲ要セザルニ至リタルトキハ選舉公報發行ノ手續ハ之ヲ中止ス
第八十七條ノ九 地方長官ハ選舉公報ノ發行ニ關シ本章ニ定ムルモノノ
外必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三章 交通至難ノ島嶼ニ於ケル特例

第八十八條 北海道廳根室支廳管内國後郡、紗那郡、擇捉郡、藥取郡及
色丹郡ニ於ケル選舉ニ關シテハ第八十九條乃至第百七條ノ規定ニ依ル

第八十九條 削除

第九十條 削除

第九十一條 削除

第九十二條 削除

第九十三條 衆議院議員選舉法第十六條第一項ニ定ムル出訴期間ハ決定
ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内トス

第九十四條 衆議院議員選舉法第三十一條第二項乃至第四項ノ規定及第
三十四條中投票ヲ受理スヘカラスト決定シタル場合ニ關スル規定ハ之
ヲ適用セス

第九十五條 投票管理者ハ投票ノ翌日投票所ニ於テ衆議院議員選舉法第
四十八條、第四十九條第二項及第五十一條ノ例ニ依リ開票管理者ニ屬
スル職務ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ投票立會人ハ其ノ例ニ依リ開票立會
人ニ屬スル職務ヲ行フ

第九十六條 各議員候補者ノ得票數ノ計算終リタルトキハ投票管理者ハ
其ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第九十七條 投票ノ點檢終リタルトキハ投票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ開票管理者ニ報告スヘシ

第九十八條 投票管理者ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ各之ヲ封筒ニ入レ投票立會人ト共ニ之ニ封印ヲ施スヘシ

第三十四條ノ規定ニ依リ受理スヘカラスト決定シタル投票ハ投票管理者之ヲ其ノ儘他ノ封筒ニ入レ投票立會人ト共ニ之ニ封印ヲ施スヘシ

第九十九條 投票管理者ハ前四條ノ規定ニ依ル手續ニ關スル顛末書ヲ作成シ投票立會人ト共ニ署名シ投票錄及前條ノ投票ト併セテ開票管理者ニ之ヲ送致スヘシ

第一百條 投票管理者ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ

第一百一條 選舉人ハ其ノ投票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第一百二條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ之ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ

前項ノ規定ハ開票ニ之ヲ準用ス

投票管理者第一項ノ規定ニ依リ投票ノ期日ヲ定メタルトキハ少クトモ五日前ニ之ヲ告示シ前項ノ規定ニ依リ開票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ開票管理者、選舉長及地方長官ニ報告スヘシ

第九十七條ノ報告及衆議院議員選舉法第三十五條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ送致セラレタル投票函ノ總テ到達シタル翌日開票ヲ行フヘシ但シ場合ニ依リ其ノ總テ到達シタル日之ヲ行フコトヲ得

開票管理者ハ前項ノ投票函ノ投票ニ付衆議院議員選舉法第四十九條第一項及第二項ノ規定ニ依ル手續ヲ終リタルトキハ前項ノ報告ヲ調査シ同條第二項ノ區域毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第九十七條ノ報告遲著ノ虞アルトキハ其ノ報告總テ到達セサルモ投票函ノ總テ到達シタル翌日以後ハ開票管理者ハ其ノ投票函ノ投票及前日迄ニ到達シタル報告ニ付前項ノ例ニ依リ開票ノ手續ヲ爲スコトヲ得但シ場合ニ依リ投票函ノ總テ到達シタル日ニ於テ其ノ投票函ノ投票及其ノ時迄ニ到達シタル報告ニ付其ノ手續ヲ爲スコトヲ妨グズ

前項ノ規定ニ依リ開票ヲ行ヒタル場合ニ於テハ開票管理者ハ報告ノ總テ到達シタル日又ハ其ノ翌日更ニ開票所ニ於テ調査未済ノ報告ヲ調査シ該報告ニ付衆議院議員選舉法第四十九條第二項ノ區域毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ前項ノ規定ニ依ル得票總數ニ通算シタル各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第二項及前項ノ場合ニ於テハ開票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ選舉長ニ報告スヘシ

第四百四條 第九十七條ノ報告ニ關スル書類及第九十九條ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル顛末書ハ開票管理者ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第四百五條 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ノ開票ニ於テハ其ノ選舉ニ係ル第九十七條ノ報告ヲ調査スヘシ

第四百六條 衆議院議員選舉法第六條ノ規定ニ依リ届出ツヘキ事項ニ付同條ノ定ムル期間内ニ届出ツルコト能ハサル情況アリト認ムルトキハ地方長官ハ第八十八條ノ地域ニ關スル部分ニ限り分別シテ適宜ニ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ届出期間ヲ延長シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第八十八條ノ地域ニ關スル當選人ニ對スル衆議院議員選舉法第八十四條第一項ニ定ムル出訴期間ハ第一項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ト同一ノ期間之ヲ延長ス

第四百七條 衆議院議員選舉法第二百二十八條ノ規定ハ投票立會人正當ノ事故ナクシテ第九十五條又ハ第九十九條ニ定メタル義務ヲ缺キタル場合ニ之ヲ適用ス

第百八條 東京府青ヶ島ニ於テハ名主ハ其ノ年十二月十九日迄ニ選舉人名簿ヲ支廳長ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル選舉人名簿ハ支廳長ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ選舉人名簿ヲ支廳長ニ發送シタル後確定判決ニ依リ之ヲ修正スヘキトキハ名主ハ直ニ其ノ旨ヲ支廳長ニ報告スヘシ
支廳長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ地方長官ニ報告スベシ

選舉人名簿ヲ其ノ年十二月十九日迄ニ支廳長ニ送付スルコト能ハサル情況アリト認ムルトキハ地方長官ハ適宜ニ選舉人名簿ノ調製、縦覽、修正ノ申立及修正ノ申立ノ決定ニ關スル期日又ハ期間ヲ定メ併セテ之ヲ告示シ其ノ年十二月十九日迄ニ選舉人名簿ヲ送付セシムルコトヲ得
第一項ノ區域ニ於ケル選舉ニ關シテハ第九十三條及第百六條ノ規定ヲ準用ス但シ地方長官トアルハ警視總監トス

投票所ハ支廳ニ之ヲ設ケ投票管理者ノ職務ハ支廳長之ヲ行フ

衆議院議員選舉法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ投票立會人ノ選任ヲ爲ス場合ニ於テハ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ選任スルコトヲ得

第百九條 沖繩縣大東島ニ於ケル選舉人名簿ニ關スル町村長ノ職務ハ地方長官ノ定メタル官吏之ヲ行フ

前項ノ區域ニ於ケル選舉ニ關シテハ第九十三條乃至第百七條ノ規定ヲ準用ス但シ投票管理者ノ職務ハ地方長官ノ定メタル官吏之ヲ行フ

前項ノ區域ニ於ケル選舉ニ關シテハ第九十三條乃至第百七條ノ規定ヲ準用ス但シ投票管理者ノ職務ハ地方長官ノ定メタル官吏之ヲ行フ

第十三章ノ二 市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル選舉ノ施行

第百九條ノ二 選舉區ノ境界ニ涉リテ境界ノ變更アリタル市町村ニ於テ

行フ衆議院議員選舉法第七十五條及第七十九條ノ選舉ニ付テハ同法第二條ノ市町村ノ區域ハ最近ニ總選舉ノ行ハレタル市町村ノ區域トシ選

舉ニ關スル事務ヲ管理スベキ市町村長ハ關係市町村長數人アルトキハ其ノ者ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者トス

第百九條ノ三 前條ノ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ關係市町村長ハ選舉前選舉人名簿中市町村ノ境界ノ變更ニ因リ異動アリタル區域ニ係ル部分ヲ投票管理者ニ送付スベシ

第百九條ノ四 第百九條ノ二ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第三條ノ郡市ノ區域ハ最近ニ總選舉ノ行ハレタル郡市ノ區域トシ開票管理者タルベキ支廳長又ハ市長ハ關係支廳長又ハ市長數人アルトキハ其ノ者ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者トス

第百九條ノ五 府縣ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル第百九條ノ二ノ選舉ニ付テハ選舉ニ關スル事務ヲ管理スベキ地方長官ハ其ノ異動アリタル區域ガ最近ノ總選舉ノ際屬シタル府縣ノ地方長官トス

第百九條ノ六 第百九條ノ二ノ選舉ニ關スル費用ニシテ第六十九條乃至

第七十二條ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第百九條ノ七 左ノ場合ニ於テ選舉又ハ投票ヲ行フベキ區域ノ境界ニ涉

リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ選舉又ハ投票ニ付テハ前五條ノ規定ヲ準用ス

一 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行フトキ (市町村ノ境界ノ變更ガ選舉區ノ境界ニ涉ル場合ヲ除ク)

二 衆議院議員選舉法第三十七條ノ投票ヲ行フトキ

第十四章 補則

第百十條 削除

第百十一條 衆議院議員選舉法第百四十四條、第百四十四條ノ二及第百四十五條ノ規定ハ本令ノ適用ニ付之ヲ準用ス但シ同法第百四十五條第二項ノ規定ハ第二十六條第七號及第八號ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ準用セズ

附則

衆議院議員選舉法施行令

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

北海道衆議院議員選舉特例ハ之ヲ廢止ス

附則 (大正十五年勅令第二百三十八號)

本令ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和三年勅令第二百六十四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行ノ日以前ニ於テ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル選舉又ハ投票ニ付テモ亦之ヲ適用ス

附則 (昭和九年勅令第三百二十五號)

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

別表 (略)

○衆議院議員選舉法施行規則

(大正十五年內務省令第四號○改正同年第三十五號 昭和二年第四十號 同九年第二十九號)

第一條

衆議院議員選舉人名簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條

衆議院議員選舉法第十七條第四項ノ選舉人名簿ノ調製及其ノ期日、縦覽確定ニ關スル期日、期間等ハ地方長官ニ於テ之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第三條

投票用紙並衆議院議員選舉法第三十一條第三項及第四項ノ規定ニ依ル封筒及衆議院議員選舉法施行令第二十九條第一項ノ規定ニ依ル投票用封筒ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四條

衆議院議員選舉法施行令第二十一條第二項及第三項並第二十九條第三項ノ規定ニ依リ投票用紙又ハ封筒ニ押捺スヘキ點字投票ナル旨ノ印ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

點字投票ナル旨ノ印ハ投票用紙及封筒ノ表面ニ之ヲ押捺スヘシ

第四條ノ二

特別投票者證明書及其ノ封筒ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第五條

投票函ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

衆議院議員選舉法施行規則

第六條 立會人ノ届出書及之ニ添附スヘキ承諾書、議員候補者ノ届出書又ハ推薦届出書並議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出書ハ別記様式ニ準シ之ヲ作成スヘシ

第七條 衆議院議員選舉法施行令第二十八條第一項ノ規定ニ依ル證明書ハ別記様式ニ準シ之ヲ作成スヘシ

第八條 投票函ハ其ノ閉鎖後開票管理者ニ送致ノ爲ノ外之ヲ投票所外ニ搬出スルコトヲ得ス

第九條 投票録、衆議院議員選舉法施行令第三十三條ノ顛末書、開票録及選舉録ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條 議員候補者ノ届出若ハ推薦届出又ハ議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出ヲ受理シタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ受理ノ年月日時ヲ届出書ノ餘白ニ記載スヘシ

第十一條 當選證書ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十二條 衆議院議員選舉法施行令第八十一條ノ三第二項又ハ之ヲ準用

スル同令第八十三條ノ規定ニ依ル規準ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 府縣ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル衆議院議員選舉法施行令第九條ノ二ノ選舉ニ要スル費用ニシテ同令第六十九條及第七十二條ニ掲グルモノハ其ノ異動アリタル區域ガ最近ノ總選舉ノ際屬シタル府縣ノ負擔トス

第十四條 衆議院議員選舉法施行令第九條ノ二ノ選舉ノ爲選舉長及選舉會場ニ要スル費用ハ最近ノ總選舉ノ際關係行政廳タリシ行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スベシ此ノ場合ニ於テハ同令第七十一條ノ規定ヲ準用ス

第十五條 選舉區ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル衆議院議員選舉法施行令第九條ノ七第二號ノ投票ヲ行フトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

衆議院議員選舉法施行規則

明治三十四年内務省令第二十八號及第二十九號並大正九年内務省令第二號ハ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和三年内務省令第四十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行ノ日以前ニ於テ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル選舉又ハ投票ニ付テモ亦之ヲ適用ス

附 則 (昭和九年内務省令第二十九號)

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

別記 (略)

○衆議院議員ニシテ大東亞戰爭ニ際シ召集中ナルニ因リ其ノ職ヲ失ヒタルモノノ補

闕及復職ニ關スル法律(昭和十八年法律第九十八號)

衆議院議員ニシテ大東亞戰爭ニ際シ召集中ナルニ因リ其ノ職ヲ失ヒタル

モノニ付テハ議院法第八十四條及衆議院議員選舉法第七十九條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

衆議院議員ニシテ大東亞戰爭ニ際シ召集中ナルニ因リ其ノ職ヲ失ヒタルモノ其ノ殘任期間中ニ召集ヲ解除セラレタルトキハ其ノ職ニ復ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一項ノ規定ハ本法施行前召集セラレタル者ニ付テモ亦之ヲ適用ス但シ其ノ者ニ關シ衆議院議員選舉法第七十九條ノ規定ニ依ル選舉會又ハ補闕選舉ニ關スル告示アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二項ノ規定ハ本法施行前召集ヲ解除セラレタル者ニ付テモ亦之ヲ適用ス

○衆議院議員ノ補闕選舉等ノ一時停止ニ關

スル法律(昭和二十年法律第三十一號)

衆議院議員ニシテ大東亞戰爭ニ際シ召集中ナルニ因リ其ノ職ヲ失ヒタルモノノ補闕及復職ニ關スル法律 衆議院議員ノ補闕選舉等ノ一時停止ニ關スル法律

衆議院議員選舉法第七十五條及第七十九條ノ規定ニ依ル選舉ハ現在衆議院議員ノ在任期間中ハ之ヲ行ハズ

衆議院議員ノ數衆議院議員選舉法別表ニ掲グル各選舉區ノ議員數ヲ合算シタル數ノ三分ノ二ニ滿タザルニ至リタルトキハ之ガ補充ノ爲選舉ヲ行フ

前項ノ規定ニ依ル選舉ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一項ノ規定ハ本法施行前同項ニ掲グル選舉ニ關スル告示アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

○衆議院議員選舉法第十條ノ特例ニ關スル

法律(昭和二十年法律第四十一號)

大東亞戰爭中衆議院議員ハ衆議院議員選舉法第十條ノ規定ニ拘ラズ勅令

ヲ以テ指定スル官吏ト相兼スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○會計法(大正十年法律第四十二號)

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度七月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ之ヲ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 每會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別

ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第五條 政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシム
前項ノ規定ニ依リ日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ命令ノ定ムル所
ニ依リ政府ノ預金トス

第六條 政府ハ國庫金出納上必要アルトキハ大藏省證券ヲ發行シ又ハ日
本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

大藏省證券及借入金ハ當該年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ
大藏省證券及借入金ノ最高額ハ毎年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第二章 豫算

第七條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出ス
ヘシ

必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ニ生シタル
場合ヲ除クノ外追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス

第八條 歳入歳出ノ總豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ

款項ニ區分スヘシ總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘ
シ

一 歳入豫算明細書

二 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第九條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第十條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ其ノ第一豫備金支出ニ係ルモノ
ハ年度經過後其ノ第二豫備金支出ニ係ルモノハ次ノ常會ニ於テ帝國議

會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス

第十一條 政府ハ豫算ニ定ムルモノ及特ニ帝國議會ノ協贊ヲ經タルモノ
ヲ除クノ外災害事變其ノ他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テハ翌年

度ニ互ル契約ヲ締結スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ毎年度
帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十二條 租稅其ノ他ノ歳入ハ法令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收又ハ收納
スヘシ

法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅其ノ他ノ
歳入ヲ徵收又ハ收納スルコトヲ得ス但シ各廳事務員ヲシテ收納ヲ分掌
セシムル場合又ハ日本銀行ヲシテ收納ヲ取扱ハシムル場合ニ於テハ此
ノ限ニ在ラス

第四章 支出

第十三條 各年度ニ於ケル決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬ス
ヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第十四條 國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ

使用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ
彼此流用スルコトヲ得ス

第十五條 國務大臣其ノ所管定額ヲ支出セムトスルトキハ現金ノ交付ニ
代ヘ日本銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ振出スヘシ但シ他ノ官吏ニ委任
シテ小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第十六條 國務大臣ハ債主ノ爲ニスルニ非サレハ小切手ヲ振出スコトヲ
得ス但シ以下四條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏又ハ日本銀行ニ對シ資金ヲ
交付スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定ムル經費ニ限り主任ノ官吏ヲシテ現
金支拂ヲ爲サシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ之カ資金ヲ當該官吏ニ交
付スルコトヲ得

第十八條 國務大臣ハ日本銀行ニ命シ國債ノ元利拂ヲ爲サシムル爲之カ
資金ヲ日本銀行ニ交付スルコトヲ得

第十九條 國務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金支拂ヲ爲サシムル爲當
該官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル歳入金歳出金又ハ歳入歳出外現金ヲ繰替
使用セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金ヲ補填スル爲國務大臣
ハ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

第二十條 國務大臣隔地者ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ必要ナル資金ヲ
日本銀行ニ交付シ之カ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付セムトスル場合ニ之ヲ準用
ス

第二十一條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定メタル場合ニ限り前金拂又ハ概算
拂ヲ爲スコトヲ得但シ軍艦、兵器、彈藥若ハ外國ヨリ直接購入スル機
械圖書ノ代價及官公署ニ對シ支拂フヘキ經費ヲ除クノ外物件ノ製造若
ハ買入又ハ工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 國務大臣ハ特殊ノ經費ヲ必要トスル場合ニ限り勅令ノ定ム

ル所ニ依リ各廳事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支
給スルコトヲ得

第五章 決算

第二十三條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル歳入

歳出ノ總決算ハ翌年開會ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第二十四條 總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用キ左ノ事項ノ計算ヲ明記

スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

不納缺損額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

會計法

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

支出濟歳出額

翌年度繰越額

不用額

第二十五條 總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附ス
ヘシ

一 歳入決算明細書

二 各省決算報告書

三 國債計算書

第六章

歳計剩餘定額繰越過年度支出豫算外收入及
定額戻入

第二十六條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰
入ルヘシ

第二十七條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事
製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ竣功又

ハ納入若ハ運搬ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ
之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十八條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造其ノ他ノ事業ニシテ繼續
費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ支出殘額ヲ竣功年度迄遞次繰
越シ使用スルコトヲ得

第二十九條 過年度ニ屬スル經費ハ現年度定額ヨリ支出スヘシ但シ豫備
金ヲ以テ補充シ得ヘキモノヲ除クノ外其ノ經費所屬年度ノ毎項定額中
不用ト爲リタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十條 出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入其ノ他豫算外ノ收入ハ總
テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ支出濟歳出ノ返納金ハ勅令ノ定ムル
所ニ依リ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルルコトヲ得

第七章 契約

第三十一條 政府ニ於テ賣買貸借請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ勅令ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外總テ公告シテ競争ニ付スヘシ國務大臣前項ノ方法ニ依リ契約ヲ爲スヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ不動産賣拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八章 時效

第三十二條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時效ニ關シ他ノ法律ニ規定ナキトキハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十三條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニ付消滅時效ノ中斷停止其ノ他ノ事項ニ關シ適用スヘキ他ノ法律ノ規定ナキトキハ民法ノ規定ヲ準用ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十四條 法令ノ規定ニ依リ政府ノ爲ス納入ノ告知ハ民法第五百十三

條ノ規定ニ拘ラス時效中斷ノ效力ヲ有ス

第九章 出納官吏

第三十五條 出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ

出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第三十六條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十七條 國務大臣ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳ノ事務員ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ分掌セシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ事務員ニ付之ヲ準用ス

相兼スルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十九條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四十條 政府ハ其ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第四十一條 日本銀行ハ其ノ取扱ヒタル國庫金ノ出納、國債ノ發行ニ依ル收入金ノ收支、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル資金ノ收支及前條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル有價證券ノ受拂ニ關シ會計検査院ノ検査ヲ受クヘシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年十二月勅令第四百八十六號ヲ以テ同十一年四月一日ヨリ施行)
明治二十七年法律第十六號、明治三十三年法律第五十號及明治四十四年

法律第二十四號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ爲シタル第二豫備金ノ支出竝本法施行ノ日ノ屬スル年度ノ前年度及前々年度ノ決算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前ニ期滿免除ト爲ラサル權利ニ付テハ本法其ノ他ノ法律中時効ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ期間ノ起算點ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

本法施行前ニ進行ヲ始メタル滿期免除ノ期間カ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ從前ノ規定ニ依ル但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ本法其ノ他ノ法律ヲ適用ス

前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○會計法戰時特例

(昭和十七年法律第十號)
○改正同十八年法律第百號

會計法戰時特例

第一條 國務大臣ハ戰時（戰爭ニ準スヘキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同シ）ニ際シ軍ノ需要充足其ノ他ノ爲必要アル場合ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ會計法第二十一條但書ノ規定ニ拘ラス前金拂若ハ概算拂ヲ爲シ又ハ手形ノ保證ヲ爲スコトヲ得

第二條 陸軍又ハ海軍ノ出納官吏戰時ニ際シ戰地（戰爭ニ準スヘキ事變ノ場合ニ於ケル事變地ヲ含ム以下之ニ同シ）ニ於テ又ハ戰地往返中其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタル場合ニ於テ國務大臣當該官吏カ其ノ保管ニ付善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシモノト認定シタルトキハ其ノ旨會計検査院ニ通知スヘシ

前項ノ通知アリタルトキハ會計法第三十六條ノ證明アリタルモノト看做ス

第三條 國務大臣ハ戰時ニ際シ特ニ必要アル場合ニ於テハ陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ掌ラシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニ付之ヲ準用ス

第四條 大東亞戰爭ニ際シ補助ノ目的タル事業ノ進捗遲延其ノ他避クベカラザル事故ノ爲年度内ニ補助費ノ支出ヲ終ルコト能ハザリシトキハ豫算又ハ他ノ法律ニ定ムル場合ノ外之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第五條 大東亞戰爭ニ際シ政府ニ於テ賣買、貸借、請負其ノ他ノ契約ヲ爲サントスル場合ニ於テ國務大臣必要アリト認ムルトキハ會計法第三十一條ノ規定ニ拘ラス指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ不動産賣拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 大東亞戰爭ニ際シ會計ニ關スル事務ノ簡捷ヲ圖ル爲必要アルトキハ一ノ會計又ハ勘定ニ屬スル特定ノ經費又ハ收入ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ他ノ會計又ハ勘定ニ屬セシムルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リタル場合ニ於テハ豫算ノ定ムル所ニ依リ當該會計又ハ勘定間ニ於テ必要ナル收支ノ調整ヲ爲スモノトス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十七年四月勅令第四百五十號ヲ以テ同年四月二十八日ヨリ施行）
昭和十三年法律第十六號ハ之ヲ廢止ス

附則（昭和十八年法律第百號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大東亞戰爭終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○會計規則

（大正十一年勅令第一號○改正昭和七年第百號、同八年第百二十號）

第一章 總則

第一節 會計年度所屬區分

第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度
- 二 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發スルモノハ納入ノ告知書ヲ發

シタル日ノ屬スル年度

三 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

日ノ屬スル年度

第二條 歳出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 國債ノ元利、年金、恩給ノ類ハ支拂期日ノ屬スル年度
- 二 諸拂戻金、缺損補填金、償還金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 三 俸給、給料、手当、旅費、手数料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度
- 四 使用料、保管料、電燈電力料ノ類ハ其ノ支拂ノ原因タル事實ノ存シタル期間ノ屬スル年度
- 五 工事製造費、物件ノ購入代價、運賃ノ類ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ日ノ屬スル年度
- 六 前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其ノ繰替

會計規則

拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度、其ノ他ノモノハ小切手ヲ振出シタル日ノ屬スル年度

第二節 國庫金ノ出納

第三條 日本銀行ハ本令ニ依ルノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金出納ノ事務ヲ取扱フヘシ

日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ政府預金トシ其ノ種別及受拂ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノニ限り相當ノ利子ヲ附セシム

第五條 毎年度所屬歲入金ヲ日本銀行ニ於テ受入ルルハ翌年度四月三十日限トス但シ左ニ掲クルノ場合ニ於テハ翌年度五月三十一日迄之カ受入ヲ爲スコトヲ得

- 一 出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歲入金ノ拂込アリタルトキ
- 二 市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歲入金ノ送付アリタルトキ

三 國庫内ニ於テ移換ニ依ル歲入金ノ受入ヲ爲ストキ
毎年度所屬歲出金ヲ日本銀行ニ於テ支拂フハ翌年度五月三十一日限トス

第二章 豫算

第一節 總豫算

第六條 大藏大臣ハ歲入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歲入歳出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ハ歲計全體ニ關スル説明ヲ附スヘシ

第七條 歲入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歲入ノ性質ヲ明ニスヘシ

第八條 歲出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第九條 歲入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 歳入豫算明細書

第十條 大藏大臣ハ毎年度歳入ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較
ヲ爲シ歳入豫算明細書ヲ調製スヘシ

歳入豫算明細書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項ノ金額ヲ各目ニ
區分シ各項毎ニ増減ノ事由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第三節 豫定經費要求書

第十一條 各省大臣ハ毎年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫
算額ト比較ヲ爲シ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ
大藏大臣ニ送付スヘシ

第十二條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ各項中所
要ノ金額ヲ各自ニ區分シ必要ノ場合ニ於テハ更ニ之ヲ細分シ經費所要
ノ理由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十三條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及

各款各項ノ説明ヲ附スヘシ

第四節 支拂豫算

第十四條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費
額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

支拂豫算ハ各款各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十五條 支拂豫算ヲ更定シタルトキハ其ノ計算書ヲ大藏大臣及會計檢
査院ニ送付スヘシ

第十六條 大藏大臣支拂豫算又ハ其ノ更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキ
ハ之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五節 豫備金支出

第十七條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ
之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算

ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ要求書ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣ハ金額理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知シ且其ノ事項及金額ヲ官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 第一豫備金ヲ以テ補充シタル金額ハ各省大臣其ノ計算書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第一豫備金支出ノ總計算書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大

臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 第二豫備金ヲ以テ支辨シタル金額ハ各省大臣其ノ調書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ毎年度帝國議會常會ノ開會後直ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第二豫備金支出ノ總調書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ調書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六節 翌年度ニ互ル契約

第二十六條 各省大臣災害事變其ノ他避クヘカラサル理由ノ爲會計法第十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ結フノ必要アリト認ムルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十七條 大藏大臣前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ金額、理由及計算ノ

基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三章 收入

第一節 徴收

第二十八條 歳入徴收官ハ法律又ハ勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外各省大臣ノ定ムル各廳ノ長ヲ以テ之ニ充ツ各省大臣必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ前項ノ規定ニ特例ヲ設クルコトヲ得

歳入徴收官必要アリト認ムルトキハ他ノ官吏ヲシテ其ノ徴收事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二十九條 支出濟ト爲リタル歳出ノ返納金ヲ歳入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ該經費ヲ支出シタル支出官之カ歳入徴收官トシテ徴收ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條 歳入徴收官租稅其ノ他ノ歳入ヲ徴收セムトスルトキハ法令ニ違フコトナキカ、所屬年度及歳入科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査シ之ヲ決定スヘシ

第三十一條 歳入徴收官前條ノ決定ヲ爲シタルトキハ納人ニ對シ其ノ納付スヘキ金額、期日及場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ出納員ニ即納セシムル場合ハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第二節 收納

第三十二條 納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納入ノ告知ヲ發セサルモノハ總テ納入ノ告知書ヲ發シタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第三十三條 出納官吏又ハ出納員租稅其ノ他ノ歳入金ヲ收納シタルトキハ領收證書ヲ納人ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ出納官吏收納濟ノ旨ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三十四條 出納官吏又ハ出納員ノ收納シタル現金ハ出納官吏之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三十五條 日本銀行ニ於テ歳入金ヲ收納シ又ハ歳入金ノ拂込ヲ受ケタ

ルトキハ領收證書ヲ納人又ハ拂込人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第三十六條 毎年度所屬歲入金ヲ出納官吏又ハ出納員ニ於テ收納スルハ翌年度四月三十日限トス

第三節 報告

第三十七條 歲入徵收官ハ毎月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ之ヲ歲入事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十八條 歲入事務管理廳ハ徵收報告書ニ依リ毎月徵收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第一節 總則

第三十九條 勅令ヲ以テ指定シタル費途ニ對シテハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ニ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス
大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第四十條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第四十一條 各省大臣他ノ官吏ヲシテ其ノ所管定額ノ支出ヲ爲サシメムトスルトキハ支拂豫算ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第四十二條 支出官ニ事故アルトキハ各省大臣ハ臨時他ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四十三條 本章ノ規定ハ小切手法ノ適用ヲ妨ケス
第二節 小切手ノ振出

第四十四條 支出官ハ小切手振出前其ノ經費ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキカヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ且該經費ハ支拂豫算額ニ超過スルコトナキカ、所屬年度及支出科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査スヘシ

第四十五條 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ受取人ノ氏名、金額、年度、支出科目、番號其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條 小切手ハ一項毎ニ之ヲ振出スヘシ

第四十七條 支出官ノ振出ス小切手ハ大藏大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式持參人拂ト爲スヘシ

第四十八條 支出官隔地ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ支拂場所ヲ指定シ日本銀行ニ之カ資金ヲ交付シ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス
第四十九條 支出官小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五十條 毎年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ小切手ヲ振出スハ翌年度四月三十日限トス但シ國庫内ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金補填ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度五月三十一日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第三節 支拂

第五十一條 小切手ノ呈示アリタルトキハ日本銀行ハ其ノ小切手カ法令ニ違フコトナキカ、券面金額カ支拂豫算各項定額ノ殘高ニ超過スルコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ十日ヲ經過シタルモノト雖一年ヲ經過セサル場合ニ於テハ之カ支拂ヲ爲スヘシ

第五十二條 日本銀行第四十八條ノ規定ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ小切手ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ債主又ハ出納官吏ニ對シ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 毎年度小切手振出濟金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十六條ノ歲計剩餘ニ組入レス之ヲ繰越整理スヘシ

第五十四條 前條ノ規定ニ依リ繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

前項ノ規定ハ日本銀行第五十二條ノ場合ニ於テ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ノ返納ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 支出官小切手ノ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ提出シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十六條 前條ノ規定ハ支出官第五十二條ノ場合ニ於テ其ノ支拂ヲ受ケサル債主又ハ出納官吏ヨリ更ニ支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四節 資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費

第五十七條 會計法第十七條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏ニシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡スルハ左ニ掲クル經費ニ限ル
一 陸軍ノ軍隊、學校及病院並海軍ノ部隊、學校、病院及艦船ニ屬スル經費

二 陸海軍ノ行軍又ハ演習ニ要スル經費

三 陸軍ニ於テ馬匹又ハ糧秣ヲ生産者ヨリ直接購入スル場合ニ要スル

經費

四 官船ニ屬スル經費

五 外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

六 運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

七 廳中常用ノ雜費及旅費但シ一年ノ總額五千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

八 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

九 各廳直營ノ工事、製造又ハ造林ニ要スル經費但シ一主任官ニ付常

時五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

十 監獄作業賞與金

十一 囚人及刑事被告人押送費

十二 證人、鑑定人、通事又ハ參考人ニ支給スル旅費其ノ他ノ給與

第五十八條 前條ノ規定ニ依リ資金ヲ前渡スルハ左ノ區分ニ依ル

一 當時ノ費用ニ係ルモノハ每一月分以内ノ費額ヲ豫定シテ交付スヘシ但シ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費、運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ

支拂ヲ爲ス經費又ハ支拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ依リ六月分以内ヲ交付スルコトヲ得

二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シ事務上差支ナキ限り成ルヘク分割シテ交付スヘシ

第五十九條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ前金拂ヲ爲シ得ルハ左ニ掲クル經費ニ限ル但シ第九號乃至第十三號ニ掲クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一 軍艦、兵器又ハ彈藥ノ代價

二 外國ヨリ直接購入スル機械又ハ圖書ノ代價

三 朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島内ニ居住スル者ニ支給スル徵兵旅費

四 運賃

五 外國ニ於テ支拂ヲ要スル土地又ハ家屋ノ借料及公課

六 政府ノ買収又ハ收用ニ係ル土地ノ上ニ存スル物件ノ移轉料

七 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費

八 外國ニ於テ研究又ハ調査ニ従事スル者ニ支給スル學資金其ノ他ノ給與

九 交通至難ノ場所ニ勤務スル者又ハ艦船乗組ノ者ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與

十 軍人、軍屬及陸海軍ノ職工ニ支給スル旅費

十一 外國在勤陸海軍武官ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與

十二 補助金

十三 諸謝金

第六十條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ概算拂ヲ爲シ得ルハ左ニ掲クル經費ニ限ル但シ第三號ニ掲クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一 旅費

二 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費

會計規則

三 補助金又ハ補給金

第六十一條 會計法第二十二條ノ規定ニ依リ事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給シ得ルハ左ニ掲クル官署ノ經費ニ限ル

一 在外各廳

二 遞信官署

三 區裁判所出張所

四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル官署

前項ノ官署ノ種類、渡切ト爲スヘキ歲出科目及支給方法ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五節 繰替拂

第六十二條

各省大臣ハ左ニ掲クル經費ノ支拂ヲ爲サシムル爲出納官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル前渡ノ資金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得但シ第四號ニ掲クル經費ニ繰替使用スヘキ資金ハ艦船經費繰替金ニ限ル

一 旅費

二 埋葬費

三 在外公官ニ於ケル難民貸與金

四 海軍省所管艦船經費

第六十三條 所管大臣ハ左ニ掲クル官署ノ出納官吏又ハ出納員ヲシテ其ノ取扱ニ依ル歲入金、歲出金及歲入歲出外現金ヲ交互ニ繰替使用セシムルコトヲ得

一 鐵道官署

二 遞信官署

前項ノ規定ニ依ル現金ノ繰替使用ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第六節 年度開始前支出

第六十四條

各省大臣ハ資金前渡ヲ爲シ得ル經費ニ限リ必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ當該年度開始前之カ資金ヲ交付スルコトヲ得

第六十五條

前條ノ場合ニ於テハ各省大臣其ノ前渡ヲ要スル經費ヲ算定

シ計算書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ
大藏大臣前項ノ計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ審査ノ上之ヲ日本銀行
ニ通知スヘシ

第七節 報告

第六十六條 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ所管大臣ニ送付
スヘシ

第六十七條 所管大臣ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製
シ支出濟額報告書ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一節 總決算

第六十八條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ依リ大藏大臣之ヲ
調製スヘシ

第六十九條 大藏大臣ハ總決算ニ歳入決算明細書、各省決算報告書及國
債計算書ヲ添ヘ會計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節 歳入決算明細書、各省決算報告書及收入
支出計算書

第七十條 大藏大臣ハ歳入豫算明細書ト同一ノ區分ニ依リ歳入決算明細
書ヲ調製シ各項毎ニ豫算ニ對スル増減ノ事由ヲ説明スヘシ

第七十一條 歳入事務管理廳ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ毎年度收入濟
歳入額ニ付豫算ニ對スル増減計算書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ
之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

七十二條 各省大臣ハ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ依リ其ノ省
所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ
大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十三條 歳入徴收官ハ會計検査院ニ證明ノ爲歳入徴收額計算書ヲ調
製シ證據書類ヲ添ヘ其ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之
ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十四條 支出官ハ會計検査院ニ證明ノ爲支出計算書ヲ調製シ證據書

類ヲ添へ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十五條 前二條ノ計算書ハ歳入事務管理廳又ハ所管大臣ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル官吏ヲシテ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三節 國債計算書

第七十六條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第七十七條 國債計算書ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現在高ヲ示ス計算
- 二 當該年度ニ於テ償還シ及支拂ヒタル各種國債ノ元高及利息ノ計算
- 三 最近五年度間ニ於ケル各種國債増減ノ情況ヲ示ス計算

第六章 定額繰越及定額戻入

第一節 定額繰越

第七十八條 各省大臣會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ調製シ各事

件毎ニ其ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ
繰越計算書ハ歳出豫算ト同一ノ區分ニ依リ調製シ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一 繰越ヲ要スル項ノ定額
- 二 定額中支出済ト爲リタル額及當該年度所屬トシテ支出スヘキ額
- 三 定額中翌年度ニ繰越ヲ要スル額
- 四 定額中不用ト爲ルヘキ額

第七十九條 會計法第二十七條ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルトキハ豫算ニ於テ明許シタル場合ヲ除クノ外前條ノ繰越計算書ニ契約書ノ寫其ノ他ノ參照書類ヲ添附スヘシ

第八十條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ繰越計算書ノ寫ヲ添へ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二節 定額戻入

第八十一條 支出済ト爲リタル歳出ノ返納金ハ其ノ支拂ヒタル經費ノ定

額ニ之ヲ戻入ルルコトヲ得但シ重大ナル過失ニ因リ誤拂過渡ト爲リタル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 支出官前條ノ規定ニ依リ定額ニ戻入レムトスルトキハ返納人ヲシテ其ノ金額ヲ返納セシムヘシ

第八十三條 日本銀行ニ於テ前條ノ返納金ヲ領收シタルトキハ之ニ相當スル金額ヲ支拂豫算定額ニ戻入ノ記載ヲ爲シ其ノ旨ヲ支出官ニ通知スヘシ

第八十四條 毎年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日限トス

第七章 契約

第一節 總則

第八十五條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スヘシ

第八十六條 契約書ニハ當該官吏記名捺印スルコトヲ要ス

第八十七條 各省大臣ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ第八十五條ニ規定スル契約書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ第五號ノ場合ニ於テハ大藏大臣

ト協議スルコトヲ要ス

- 一 三千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ
- 二 外國ニ於テ五千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

三 糶賣ニ付スルトキ

四 物品賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ

五 第一號及第二號以外ノ隨意契約ニ付各省大臣契約書ヲ作成スルノ必要ナシト認ムルトキ

第八十八條 政府ト契約ヲ結ハムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ契約金額百分ノ十以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ各省大臣ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得前條第三號及第四號ノ場合亦同シ

第八十九條 契約者其ノ業務ヲ履行セサルトキハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外保證金ハ政府ノ所得トス

第九十條 政府ニ屬スル財産ノ賣拂ヲ爲ストキハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ引渡前又ハ移轉ノ登記若ハ登録前其ノ代金ヲ完納セシムヘシ

第九十一條 財産ノ貸付料ハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ前納セシムヘシ但シ貸付期間ノ長期ニ涉ルモノニ付テハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第九十二條 各省大臣三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ付テハ竣功又ハ完納ノ後之ヲ監督又ハ検査シタル官吏又ハ技術者ヲシテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ
契約ニ依リ工事若ハ製造ノ既濟部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完濟前

又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ハムトスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏又ハ技術者ヲ命シ事實ヲ測定シテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條 前條第二項ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ工事又ハ製造ニ付テハ其ノ既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九、物件ノ買入ニ付テハ其ノ既納部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得ス但シ箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事又ハ製造ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額迄ヲ支拂フコトヲ得

第九十四條 前二條ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條 本章ニ定ムルモノノ外契約ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 一般競争契約

第九十六條 一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九十七條 各省大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ヲ爾後二年間競争ニ加ラシメサルコトヲ得之ヲ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用シタル者亦同シ

一 契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事、製造又ハ物件ヲ粗雑ニシ又ハ其ノ品質數量ニ關シ欺罔ノ行爲アリタル者

二 競争ニ際シ不當ニ價格ヲ競上ケ又ハ競下クル目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者

三 競争ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落者ノ契約締結若ハ契約ノ履行ヲ妨害シタル者

四 検査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者

五 正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セサリシ者

六 前各號ノ一ニ該當スト認メラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約

ニ際シ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用スル者

第九十八條 各省大臣ハ前條ノ規定ニ該當スル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ヲ競争ニ加ラシメサルコトヲ得

第九十九條 競争ニ加ラムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ見積金額百分ノ五以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

第一百條 競落者契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス

第一百一條 競争ハ第九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第一百二條 入札ノ方法ニ依リ競争ニ付セムトスルトキハ其ノ入札期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ十日前ニ官報、新聞紙、揭示其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ但シ急ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ五日迄ニ短縮スルコトヲ得

第一百三條 前條ノ公告ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

一 競争入札ニ付スル事項

會計規則

二 契約條項ヲ示ス場所

三 競争執行ノ場所及日時

四 入札ノ保證金額

第四百四條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ競争入札ニ付スル事項ノ價格ヲ豫定シ其ノ豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第四百五條 開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札者ニシテ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ

入札者ハ一旦提出シタル入札書ノ引換、變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス競争加入ノ資格ナキ者ノ爲シタル入札又ハ入札ニ關スル條件ニ違反シタル入札ハ無効トス

第四百六條 開札ノ場合ニ於テ各人ノ入札中第四百四條ノ規定ニ依リ豫定シタル價格ノ制限ニ達シタルモノナキトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百七條 落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ當該入札者申出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ爲サシムヘシ

第四百八條 入札者若ハ落札者ナキ場合又ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ入札ニ付セムトスルトキハ第四百二條ノ期間ハ五日迄ニ之ヲ短縮スルコトヲ得

第四百九條 各省大臣動産ノ賣拂ニ付特別ノ事由ニ因リ必要アリト認ムル場合ニ於テハ大藏大臣ト協議シ本節ノ規定ニ準シ糶賣ニ付スルコトヲ得

第三節 指名競争契約

第一百十條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ

會計規則

於テハ指名競争ニ付スルコトヲ得

- 一 契約ノ性質又ハ目的ニ依リ競争ニ加ルヘキ者少數ニシテ一般ノ競争ニ付スルノ必要ナキトキ
 - 二 一萬圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ五千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ
 - 三 賃借料年額又ハ總額三千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
 - 四 豫定貸貸料年額又ハ總額千圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
 - 五 豫定代價二千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
 - 六 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額四千圓ヲ超エサルトキ
- 隨意契約ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ指名競争ニ付スルコトヲ妨ケス

第百十一條 指名競争ニ付セムトスルトキハ成ルヘク五人以上ノ入札者ヲ指定スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第百三條ニ規定シタル事項ヲ各入札者ニ通知スヘシ

第百十二條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競争ニ付シテ契約ヲ結ヒタルトキハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第百十三條 第九十七條乃至第百一條、第百四條乃至第百七條ノ規定ハ指名競争契約ノ場合ニ之ヲ準用ス
各省大臣必要ナシト認ムル場合ニ於テハ第九十九條ノ保證金ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第四節 隨意契約

第百十四條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

- 一 契約ノ性質又ハ目的カ競争ヲ許ササルトキ
- 二 急迫ノ際競争ニ付スルノ暇ナキトキ
- 三 政府ノ行爲ヲ祕密ニスルノ必要アルトキ

會計規則

- 四 五千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ
- 五 賃貸料年額又ハ總額千五百圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
- 六 豫定賃貸料年額又ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
- 七 豫定代價千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 八 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額二千圓ヲ超エサルトキ
- 九 勞力ノ供給ヲ請負ハシムルトキ
- 十 運送又ハ保管ヲ爲サシムルトキ
- 十一 官廳相互間ニ於テ契約ヲ爲ストキ
- 十二 農工場、學校、試驗所、監獄其ノ他之ニ準スヘキモノノ生産又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 十三 法律勅令ノ規定ニ依リ財産ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ其ノ財産ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
- 十四 非常災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ政府ノ生産ニ係ル建築材

料ノ賣拂ヲ爲ストキ

- 十五 外國ニ於テ契約ヲ爲ストキ
- 十六 道府縣—市—町—村其ノ他ノ公法人、公益法人、産業組合又ハ慈惠ノ爲ニ設立シタル救育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ
- 十七 移住地域内ニ於ケル土木工事ヲ其ノ移住民ノ共同請負ニ付スルトキ
- 十八 學術又ハ技藝ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
- 十九 産業又ハ拓殖事業ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂若ハ貸付ヲ爲ストキ又ハ生産者ヨリ直接ニ其ノ生産若ハ製造ニ係ル物品ノ買入ヲ爲ストキ
- 二十 公共用、公用又ハ公益事業ニ供スル爲必要ナル物件ヲ直接ニ公共團體又ハ起業者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十一 土地、建物、林野又ハ其ノ産物ヲ之ニ特別ノ縁故アル者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十二 事業經營上特ニ必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地建物ノ借入ヲ爲ストキ

二十三 法律勅令ノ規定ニ依リ問屋業者ニ販賣ヲ委託スルトキ又ハ之ヲシテ販賣ヲ爲サシムルトキ

前項第十九號乃至第二十三號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫メ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

前項ノ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏大臣直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スハシ

第一百五條 競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナキトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ保證金及期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第十六條 落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ落札金額ノ制限内ニ於テ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第十七條 前二條ノ場合ニ於テ豫定價格又ハ落札金額ヲ分割計算シ得ル場合ニ限リ該價格又ハ金額ノ制限内ニ於テ各目的ニ付之ヲ數人ニ分割シテ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十八條 隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徴スヘシ

第十九條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依リタル場合ニ於テハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第八章 保管金及有價證券

第二十條 政府ハ法律勅令ノ規定ニ依ルニ非サレハ公有又ハ私有ノ現金又ハ有價證券ヲ保管セス

第二十一條 政府ノ保管ニ係ル現金ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ

大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第二百二十二條 政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之カ取扱ヲ爲サシム

第二百二十三條 政府ノ保管ニ係ル現金又ハ政府ノ所有若ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱手續ニ關シテハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外大藏大臣之ヲ定ム

第九章 出納官吏

第一節 總則

第二百二十四條 本令ニ於テ出納官吏ト稱スルハ現金ノ出納保管ヲ掌ル官吏ヲ謂フ

第二百二十五條 出納官吏ハ各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ命ス

第二百二十六條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏必要アリト認ムルトキハ出納官吏ノ代理官又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

前項ノ代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其ノ一部ヲ分掌スルモノトス

第二百二十七條 所管大臣ハ會計法第三十七條ノ規定ニ依リ左ニ掲クル官署ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

一 鐵道官署

二 遞信官署

前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大藏大臣ト協議シ其ノ廳ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二百二十八條 前條ノ規定ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ノ分掌ヲ命セラレタル事務員ハ主任出納官吏又ハ分任出納官吏所屬ノ出納員トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ

第二百二十九條 出納員ノ領收シタル現金ハ之ヲ所屬出納官吏ニ拂込ムヘシ

シ但シ所管大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ出納官吏又ハ出納員ニ交付セシムルコトヲ得

第三百十條 出納官吏又ハ出納員其ノ保管ニ屬スル現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタル場合ニ於テハ所管大臣ハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ

第三百十一條 出納官吏及出納員ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ヲ爲スヘシ

第二節 責任

第三百十二條 出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル現金ノ出納保管ニ付單ニ自ラ事務ヲ執ラサルコトヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ其ノ代理官、分任官又ハ所屬出納員ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三百十三條 代理出納官吏、分任出納官吏又ハ出納員ハ其ノ行爲ニ付會計法第三十五條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百十四條 各省大臣ハ出納官吏又ハ出納員ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決前ト雖其ノ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ヲ命スルコトヲ得

第三百十五條 前條ノ場合ニ於テ其ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏又ハ出納員其ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添へ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其ノ判決ヲ求ムルコトヲ得

所管大臣ハ前項ノ場合ト雖其ノ命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス
會計検査院ニ於テ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其ノ既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付スヘシ

第三節 検査及證明

第三百十六條 出納官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日又ハ轉免、死亡、退職其ノ他異動アリタルトキ所管大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但シ臨時ニ資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ
出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムヘシ

第三百三十七條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ當該出納官吏又ハ出納員事
故ニ因リ自ラ検査ヲ受クルコト能ハサルトキハ其ノ代理者又ハ特ニ所
管大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第三百三十八條 出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ檢定
書ニ通ヲ作成シ検査員及當該出納官吏出納員又ハ立會人之ニ記名捺印
シ一通ハ當該出納官吏、出納員又ハ立會人ニ交付シ一通ハ所管大臣ニ
提出スヘシ

第三百三十九條 出納官吏又ハ出納員他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ金
櫃ノ検査ヲ執行スル者ハ併セテ他ノ公金ノ検査ヲ行フヘシ

第四百十條 租稅其ノ他ノ歳入金ノ收納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査
判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ歳入徵收官ヲ經由
シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十一條 資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受
クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シテ之ヲ會計
検査院ニ提出スヘシ

第四百十二條 歳入歳出外現金ノ出納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判
決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指
定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十三條 第六十三條ノ規定ニ依リ預金ノ繰替使用ヲ爲ス官吏ハ會
計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所
管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘ
シ

第四百十四條 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシ出納
員ノ出納ハ總テ所屬出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其ノ報告書及計算書
ハ各別ニ提出スルコトヲ要セス但シ所管大臣又ハ會計検査院ニ於テ必
要アリト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏又ハ出納員ヲシテ報告書又ハ

計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第四百十五條 出納官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ第四百四十條乃至第四百四十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四百十六條 出納官吏又ハ出納員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ計算書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ所管大臣ノ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏又ハ出納員定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ所管大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

前二項ノ規定ニ依リ調製シタル計算書ハ出納官吏又ハ出納員ノ自ラ調製シタルモノト看做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第四百十七條 出納官吏又ハ出納員ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第十章 日本銀行ノ計算報告及出納證明

第四百十八條 日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金ノ出納報告

書ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

第四百十九條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲國庫金ノ出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國債ノ發行ニ依ル收入金、國債元利拂資金及隔地者拂資金ノ收支ヲ整理シ之ヲ前項ノ計算書ニ掲記スヘシ

大藏大臣ハ第一項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第四百十條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券受拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第四百十一條 政府ノ爲ニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ政府ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於ケル日本銀行ノ賠償責任ニ付テハ民法及商法ニ依ル

第十一章 帳簿

四五〇

第二百五十二條 大藏省ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ國庫金ノ出納ヲ登記スヘシ

第二百五十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ歳入主計簿ニハ歳入豫算額、調定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記シ歳出主計簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出済額、翌年度繰越額及残額ヲ登記スヘシ

第二百五十四條 歳入徴收官ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ調定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記スヘシ

第二百五十五條 歳入事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記スヘシ

第二百五十六條 支出官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ支拂豫算額、支出済額及支拂豫算残額ヲ登記スヘシ

第二百五十七條 各省ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、

支出済額、翌年度繰越額及残額ヲ登記スヘシ

第二百五十八條 出納官吏及出納員ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第二百五十九條 前七條ニ規定スル帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六十條 日本銀行ハ左ニ掲クル帳簿ヲ備ヘ政府ノ爲ニ取扱フ現金ノ出納又ハ有價證券ノ受拂ヲ登記スヘシ

- 一 國庫金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿
 - 二 支拂豫算額及支拂済額ヲ登記スヘキ帳簿
 - 三 國債ノ發行ニ依ル收入金ニ關スル出納ヲ登記スヘキ帳簿
 - 四 國債元利拂資金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿
 - 五 隔地者拂資金ノ收支ヲ登記スヘキ帳簿
 - 六 有價證券ノ受拂ヲ登記スヘキ帳簿
- 前項ノ帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ日本銀行之ヲ

定ム

第六十一條 大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上毎年七月三十一日前年度ノ主計簿ヲ締切ルヘシ

第十二章 雜則

第六十二條 本令ニ依リ會計検査院ニ提出スル計算證明書類ノ様式及提出期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第六十三條 前條ノ計算證明書類ヲ除クノ外本令ニ規定スル書類ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六十四條 本令ニ依リ記名捺印ヲ要スル場合ニ於テハ外國ニ在リテハ署名ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第六十五條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外收入及支出ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第六十六條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十七條 左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

(勅令名略)

大正六年勅令第三百三十二號ハ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第六十八條 金庫ニ納付セシムル爲納入ノ告知アリタル歳入金ニシテ本令施行前收納ヲ了セサルモノハ該納入ノ告知ニ依リ日本銀行ニ於テ之ヲ收納ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ハ定額戻入ノ爲納入ノ告知アリタル返納金ニシテ本令施行前領收ヲ了セサル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 仕拂命令ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ仕拂命令ニ關スル從前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之ヲ支拂ヲ取扱ハシム

第五十五條ノ規定ハ前項ノ支拂期間經過後仍會計法附則第五項ノ規定ニ依リ期間ノ滿了セサル債務ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第七十條 大正十一年五月三十一日迄ニ支拂ノ請求ナキ大正十年度仕

拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ從前ノ例ニ依リ當該年度ノ歲出支拂未
濟金トシテ之ヲ繰越整理スヘシ

第七十一條 本令施行前繰越整理ニ係ル資金及前條ノ繰越整理ニ係ル
資金ニシテ大正十二年三月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサルモノハ之ヲ大
正十一年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第七十二條 大正十年度支出濟歲出額ハ同年度歲入歲出ノ總決算及主
計簿ニ於テハ仕拂命令濟歲出額ニ併算スヘシ

大正十一年度仕拂命令濟歲出額ハ同年度歲入歲出ノ總決算及主計簿ニ
於テハ支出濟歲出額ニ併算スヘシ

第七十三條 大正十年度分ニ限り金庫ニ備ヘタル支出簿ハ第六十條
第二號ノ帳簿ニ代用セシムルコトヲ得

第七十四條 前六條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナ
ル規定ハ大藏大臣之ヲ定ム

○國有財産法(大正十年法律第四十三號、○改)
(正昭和十八年法律第百二號)

第一條 本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産並勅令ヲ以テ定ム
ル國有ノ動産及權利ヲ謂フ

第二條 國有財産ヲ分チテ左ノ四種トス

一 公共用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定
シタルモノ

二 公用財産 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他
ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

三 營林財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定
シタルモノ

四 雜種財産 前各號ニ屬セサルモノ

第三條 國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シテ國有財産ニ關ス
ル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ

第四條 國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第五條 雜種財産ハ左ニ掲クル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得

一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ

二 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ

三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限り之ヲ出資

ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限り帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メ

テ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ
隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコ
トヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年

二 前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年
貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條 國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ

國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必
要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ
生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ
提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通
知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ
爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サム
トスル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ
成功ヲ條件トシテ其ノ財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事
業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業

ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニ
テ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル
場合ニ於テ指定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其
ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲
シタル場合ニ於テ豫定期間内ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面
ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部
分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 従前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令
ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ
貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキ
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺

院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國有財産ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ
臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 政府ハ每會計年度間ニ於ケル國有財産増減總計算書及每五
年三月三十一日現在ノ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ會計検査院ノ
検査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財産増減總計算書ニハ各省ノ國有財産増減報告書ヲ、國有
財産現在額總計算書ニハ各省ノ國有財産現在額報告書ヲ添附スヘシ

附 則

第二十七條 本法施行ノ期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財産ニ付
之ヲ適用セス

第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財産増減總計算書ハ本法施行
ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財産現在額總計算書ノ第一回分ハ本法

施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二十九條ノ二 第二十六條第二項ノ規定ハ大東亞戰爭中及其ノ終了後
一年間ニ同條第一項ノ規定ニ依リ帝國議會ニ報告スル國有財産増減總
計算書又ハ國有財産現在額總計算書ニ付テハ之ヲ適用セス

第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモ
ノト雖當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條
乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力
ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減異動報告ニ付テハ仍從前
ノ例ニ依ル

第三十二條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本
法中ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモ
ノト看做ス

第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アル

トキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附 則(昭和十八年法律第百二號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○國有財産法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

(昭和十一年勅令第百六十六號)
○改正昭和十五年第八十三號)

第一條 國有財産法ハ第十三條及第二十四條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ朝鮮ニ施行ス

第二條 朝鮮總督府ニ屬スル國有財産ニ關スル事務ハ朝鮮總督之ヲ管理スベシ

第三條 各省大臣公用財産ノ用途ヲ廢止セントスルトキハ豫メ之ヲ朝鮮總督及大藏大臣ニ通知シ特ニ朝鮮總督ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ引繼グベシ但シ其ノ用途廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ及大學資金ニ屬スルモノニ付テハ此

ノ限ニ在ラズ

朝鮮總督前項ノ規定ニ依リ引繼ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スベシ

第四條 前項ノ規定ニ依リ引繼ヲ受ケタル財産又ハ之ト交換シタル財産ハ國有財産整理資金ノ爲朝鮮總督之ヲ管理スベシ但シ朝鮮總督大藏大臣ト協定シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 朝鮮總督各省大臣ノ管理ニ屬スル國有財産ノ管理換ヲ受ケントスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スベシ

各省大臣朝鮮總督ノ管理ニ屬スル國有財産ノ管理換ヲ受ケントスルトキハ朝鮮總督及大藏大臣ニ協議スベシ

第六條 朝鮮總督國有財産整理資金ノ爲管理スル雜種財産ヲ公用財産若ハ營林財産ト爲サントスルトキ又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ交換セントスルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ

第七條 雜種財産ハ營利ヲ目的トセザル公共ノ利益ト爲ルベキ事業ニ供

國有財産法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

スル爲必要アルトキハ國有財産法第五條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ當該事業者ニ讓與スルコトヲ得

第八條 市街地計畫區域内ニ於ケル雜種財産タル土地ハ國有財産法第五條ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ市街地計畫事業執行ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ讓與スルコトヲ得

第八條ノ二 陸接國境ニ於ケル公道橋ノ附帶施設タル防護匡舎竝ニ税關監視所用及警察官派出所用廳舎ハ滿洲國政府ニ於テ公用ニ供スル爲必要アルトキハ無償ニテ之ヲ使用セシムルコトヲ得

前項ノ國有財産ニシテ雜種財産タルモノハ國有財産法第五條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ滿洲國政府ニ讓與スルコトヲ得

第八條ノ三 雜種財産タル送電及變電設備(附屬建物ヲ含ム)竝ニ其ノ敷地ハ朝鮮總督ノ定ムル鑛業ノ用ニ供スルノ必要アルトキハ無償ニテ之ヲ電氣事業者ニ貸付スルコトヲ得

第九條 前四條ノ場合ニ於テ其ノ財産ガ國有財産整理資金ノ爲管理セラ

ルルモノナルトキハ朝鮮總督ハ大藏大臣ニ協議スベシ

第十條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラザルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ朝鮮總督府稅務署ニ委嘱スベシ

前項ニ規定スル委嘱アリタルトキハ朝鮮總督府稅務署ハ其ノ境界査定ヲ施行スベシ

國有財産法施行令第十五條乃至第十八條中當該官廳トアルハ前項ノ規定ニ依リ境界査定ヲ施行スベキ朝鮮總督府稅務署トス

第十一條 國有財産法第十二條ノ公告ハ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係アル府尹又ハ邑面長ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムベシ

第十二條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ不服アル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

第十三條 朝鮮總督ハ其ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付毎會計年度間ニ於

國有財産法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ拓務大臣ニ送付スベシ

朝鮮總督ハ其ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付毎五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年八月三十一日迄ニ之ヲ拓務大臣ニ送付スベシ

第十四條 國有財産法施行令第三十八條ニ規定スル事項ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付テハ朝鮮總督大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第十五條 國有財産法第三條ノ規定ハ朝鮮總督府ニ屬スル國有財産ニ付之ヲ適用セズ

國有財産法施行令第二條、第四條、第五條、第十四條及第十九條ノ規定ハ朝鮮ニ於ケル國有財産ニ付之ヲ適用セズ

國有財産法施行令第三條、第八條但書及第三十六條乃至第三十八條ノ規定ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付之ヲ適用セズ

第十六條 朝鮮總督ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付テハ國有財産法施行令

第一條中所管大臣又ハ第三十五條中各省大臣トアルハ朝鮮總督、同令第三十條中所管ノ各省又ハ各省トアルハ朝鮮總督府トス

附則

第十七條 本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 朝鮮官有財産管理規則及驛屯土特別處分令ハ之ヲ廢止ス

第十九條 官有財産ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十條 驛屯土、國有ノ泆及從來驛屯土ニ準ジテ管理シタル土地ニシテ本令ノ施行ノ際現ニ驛屯土特別處分令ニ依リ貸付又ハ賣拂ノ契約ノ效力ヲ有スルモノニ付テハ其ノ契約ノ終了ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

第二十一條 國有未墾地利用法、森林令、朝鮮土地改良令及朝鮮市街地計畫令中ノ國有財産ノ讓與、貸付又ハ貸付ニ依ラザル使用若ハ收益ニ關スル事項ニ付テハ國有財産法トノ關係ニ於テハ當分ノ內當該法律又ハ制令ニ依ル

第二十二條 國有財產現在額報告書ノ第一回分ハ昭和十二年三月三十一日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スベシ

第二十三條 國有財產法、國有財產法施行令及本令中國有財產ノ臺帳ニ關スル規定ハ當分ノ內國有ノ林野ニ付之ヲ適用セズ

第二十四條 本令施行ノ際國有財產ノ臺帳ニ登錄スベキ土地及立木竹ノ價格ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

○國有財產法ヲ臺灣ニ施行スルノ件(昭和十二年勅令第三十六號)

第一條 國有財產法ハ第二十四條及行政訴訟ニ關スル規定ヲ除クノ外之ヲ臺灣ニ施行ス

第二條 臺灣總督府ニ屬スル國有財產ニ關スル事務ハ臺灣總督之ヲ管理スベシ

第三條 各省大臣公用財產ノ用途ヲ廢止セントスルトキハ豫メ之ヲ臺灣

總督府及大藏大臣ニ通知シ特ニ臺灣總督ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ臺灣總督ニ引繼グベシ但シ其ノ用途廢止ト同時ニ國有財產タルノ性質ヲ失フモノ及大學資金ニ屬スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

臺灣總督前項ノ規定ニ依リ引繼ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スベシ

第四條 前條ノ規定ニ依リ引繼ヲ受ケタル財產又ハ之ト交換シタル財產ハ國有財產整理資金ノ爲臺灣總督之ヲ管理スベシ但シ臺灣總督大藏大臣ト協定シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 臺灣總督各省大臣ノ管理ニ屬スル國有財產ノ管理換ヲ受ケントスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スベシ

各省大臣臺灣總督ノ管理ニ屬スル國有財產ノ管理換ヲ受ケントスルトキハ臺灣總督及大藏大臣ニ協議スベシ

第六條 臺灣總督國有財產整理資金ノ爲管理スル雜種財產ヲ公用財產若

國有財產法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

ハ營林財産ト爲サントスルトキ又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ交換
セントスルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ

第七條 雜種財産ハ營利ヲ目的トセザル公共ノ利益ト爲ルベキ事業ニ供
スル爲必要アルトキハ國有財産法第五條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ當該事業
者ニ讓與スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ財産ガ國有財産整理資金ノ爲管理セララルモノ
ナルトキハ臺灣總督ハ大藏大臣ニ協議スベシ

第八條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラザルモノアル場合ニ於テ當該官廳
必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳
ハ其ノ境界査定ヲ知事又ハ廳長ニ委嘱スベシ

前項ニ規定スル委嘱アリタルトキハ知事又ハ廳長ハ其ノ境界査定ヲ施
行スベシ

國有財産法施行令第十五條乃至第十八條中當該官廳トアルハ前項ノ規
定ニ依リ境界査定ヲ施行スベキ知事又ハ廳長トス

第九條 國有財産法第十二條ノ公告ハ臺灣總督府報ヲ以テ之ヲ爲シ且關
係アル市尹、街庄長又ハ大正九年勅令第三百六十一號第二條ノ區長ヲ
シテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムベシ

第十條 臺灣總督ハ其ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付每會計年度間ニ於ケ
ル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ拓務大臣
ニ送付スベシ

臺灣總督ハ其ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付每五年三月三十一日現在ニ
於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年八月三十一日迄ニ之ヲ拓
務大臣ニ送付スベシ

第十一條 國有財産法施行令第三十八條ニ規定スル事項ハ臺灣總督ノ管
理ニ屬スル國有財産ニ付テハ臺灣總督大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第十二條 國有財産法第三條ノ規定ハ臺灣總督府ニ屬スル國有財産ニ付
之ヲ適用セズ

國有財産法施行令第二條、第四條、第五條、第十四條及第十九條ノ規

定ハ臺灣ニ於ケル國有財産ニ付之ヲ適用セズ

國有財産法施行令第三條、第八條但書及第三十六條乃至第三十八條ノ規定ハ臺灣總督ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付之ヲ適用セズ

第十三條 臺灣總督ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付テハ國有財産法施行令第一條中所管大臣又ハ第三十五條中各省大臣トアルハ臺灣總督、同令第三十條中所管ノ各省又ハ各省トアルハ臺灣總督府トス

附則

第十四條 本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 明治三十年勅令第七十四號、明治三十年勅令第三百八十九號及臺灣官有財産管理規則ハ之ヲ廢止ス但シ臺灣官有財産管理規則第六條第三號及第五號ノ規定ハ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第十六條 臺灣官有森林原野及產物特別處分令、臺灣鹽田規則、臺灣樟樹造林獎勵規則、臺灣森林令及臺灣都市計畫令中ノ國有財産ノ賣拂、讓與、貸付又ハ貸付ニ依ラザル使用若ハ收益ニ關スル事項ニ付テハ國有

財産法トノ關係ニ於テハ當分ノ内當該勅令又ハ律令ニ依ル

第十七條 本令施行ノ際現ニ存スル官租地ノ貸付ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

第十八條 官有財産ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ依ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第十九條 國有財産現在額報告書ノ第一回分ハ昭和十二年三月三十一日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スベシ

第二十條 國有財産法、國有財産法施行令及本令中國有財産ノ臺帳、計算書及報告書ニ關スル規定ハ當分ノ内國有ノ林野及蕃地ニ付之ヲ適用セズ但シ國有財産ノ臺帳記載事項ニ付調査ヲ爲シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 本令施行ノ際國有財産ノ臺帳ニ登録スベキ土地及立木竹ノ價格ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

○國有財産法ヲ樺太ニ施行スルノ件(昭和十二年勅令第百號)

第一條 國有財産法ハ第十三條及第二十四條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ樺太ニ施行ス

第二條 樺太廳ニ屬スル國有財産ニ關スル事務ハ樺太廳長官ヲシテ之ヲ管理セシム

第三條 各省大臣公用財産ノ用途ヲ廢止セントスルトキハ豫メ之ヲ樺太廳長官及大藏大臣ニ通知シ特ニ樺太廳長官ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ樺太廳長官ニ引繼グベシ但シ其ノ用途廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ及大學資金ニ屬スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

樺太廳長官前項ノ規定ニ依リ引繼ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スベシ

第四條 前條ノ規定ニ依リ引繼ヲ受ケタル財産又ハ之ト交換シタル財産ハ國有財産整理資金ノ爲樺太廳長官ヲシテ之ヲ管理セシム但シ樺太廳長官大藏大臣ト協定シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 樺太廳長官各省大臣ノ管理ニ屬スル國有財産ノ管理換ヲ受ケントスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スベシ

各省大臣樺太廳長官ノ管理スル國有財産ノ管理換ヲ受ケントスルトキハ樺太廳長官及大藏大臣ニ協議スベシ

第六條 樺太廳長官國有財産整理資金ノ爲管理スル雜種財産ヲ公用財産若ハ營林財産ト爲サントスルトキ又ハ讓與、交換若ハ無償ニテ貸付セントスルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ

第七條 雜種財産ハ營利ヲ目的トセザル公共ノ利益ト爲ルベキ事業ニ供スル爲必要アルトキハ國有財産法第五條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ當該事業者ニ讓與スルコトヲ得

第八條 國有財産法第二十一條乃至第二十三條及國有財産法施行令第二

國有財産法ヲ樺太ニ施行スルノ件

十三條乃至第二十七條ノ規定ハ公共用財産タル國有水面ノ埋立又ハ干拓ヲ爲サントスル者アル場合ニ付之ヲ準用ス

第九條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラザルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ樺太廳支廳長ニ委囑スルコトヲ得

前項ニ規定スル委囑アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ其ノ境界査定ヲ施行スベシ此ノ場合ニ於テハ國有財産法施行令第十五條乃至第十八條中當該官廳トアルハ境界査定ヲ施行スベキ樺太廳支廳長トス

第十條 樺太廳長官ハ其ノ管理スル國有財産ニ付每會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ拓務大臣ニ送付スベシ

樺太廳長官ハ其ノ管理スル國有財産ニ付每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年八月三十一日迄ニ之ヲ拓務大臣ニ送付スベシ

第十一條 國有財産法施行令第三十八條ニ規定スル事項ハ樺太廳長官ノ管理スル國有財産ニ付テハ樺太廳長官大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第十二條 國有財産法施行令第二條、第四條及第五條ノ規定ハ樺太ニ於ケル國有財産ニ付之ヲ適用セズ

國有財産法施行令第三條、第八條但書及第三十八條ノ規定ハ樺太廳長官ノ管理スル國有財産ニ付之ヲ適用セズ

第十三條 樺太廳長官ノ管理スル國有財産ニ付テハ國有財産法施行令第一條中所管大臣又ハ第三十五條中各省大臣トアルハ樺太廳長官、同令第十九條中官報トアルハ樺太廳公報、同令第三十條中所管ノ各省又ハ各省トアルハ樺太廳トス

附 則

第十四條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 樺太官有財産管理規則ハ之ヲ廢止ス

第十六條 樺太官有財産管理規則ニ依リテ爲シタル處分又ハ契約ニシテ

國有財産法ヲ樺太ニ施行スルノ件

本令施行ノ際現ニ其ノ效力ヲ有スルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第十七條 樺太國有未開地特別處分令、樺太國有森林原野產物特別處分令及大正四年勅令第八十六號ハ國有財產法、國有財產法施行令又ハ本令ニ拘ラズ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第十八條 官有財產ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第十九條 國有財產現在額報告書ノ第一回分ハ昭和十二年三月三十一日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スベシ

第二十條 國有財產法、國有財產法施行令及本令中國有財產ノ臺帳、計算書及報告書ニ關スル規定ハ當分ノ内國有ノ未開地及林野ニ付之ヲ適用セズ但シ國有財產ノ臺帳記載事項ニ付調査ヲ爲シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 本令施行ノ際國有財產ノ臺帳ニ登録スベキ土地及立木ノ價格ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

○國有財產法施行令

大正十一年勅令第十五號、同九年改正昭和二年第四十二號、同九年第七十七號、同十七年第九十號

第一章 總則

第一條 左ニ掲クル動產及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財產法第一條ノ國有財產トス

- 一 船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠
- 二 不動產又ハ前號ニ掲クル動產ノ從物
- 三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具
- 四 地上權、地役權、鑛業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權利
- 五 株式及出資ニ因ル權利

前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 各省大臣公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ニ之ヲ通知シ特ニ大藏大臣ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財產タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財產ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、通信事業特別會計、簡易生命保險特別會計、大學資金又ハ學校及圖書館資金ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三條 各省大臣國有財產ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

- 一 公用財產タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ
- 二 公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ
- 三 雜種財產ヲ公用財產又ハ營林財產ト爲サムトスルトキ
- 四 營林財產ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條 各省大臣公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 前二條ノ規定ハ國有財產法施行地外ニ在ル財產及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スヘキ財產ニ付之ヲ適用セス

第七條 國有財產ニ關スル事務ニ従事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財產ヲ讓受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第二章 賣拂、讓與及交換

第八條 公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財產ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財產ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ財

産ノ見込價格カ其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過額ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財産中寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 國有財産ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ
評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニ依リ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途竝之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 境界査定

第十四條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條 境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ
前項ノ書面ノ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除クノ外期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條 隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條 境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有

者ニ之ヲ通知スヘシ

隣接地所有者ハ當該官廳又ハ其ノ指定シタル官公署ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外其ノ受領書ヲ徵スヘシ

第十九條 國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第四章 貸付及準貸付

第二十條 公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條 隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ國有財産法

第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條 前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ

- 一 土地又ハ水面ノ所在及面積
 - 二 事業ノ目的
 - 三 事業施行ノ方法及順序
 - 四 成功豫定期間
 - 五 收支豫算
 - 六 計畫圖
- 事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條 國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂
又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸
付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ
前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合
ニ之ヲ準用ス

第二十五條 事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於
テ之ヲ定ムヘシ
天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ當該官廳

ハ前項ノ規定ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定
期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得
第二十六條 當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以内ノ期間ヲ指定シ事業者ヲ
シテ其ノ事業ニ著手セシムヘシ
前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 國有財産法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分
ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ
事由アリト認ムル場合ヲ除クノ外豫約ニ定メタル條項ニ準シテ其ノ契
約ヲ爲スヘシ

第二十八條 國有財産法第二十四條第一項ニ規定スル雜種財産ノ使用又
ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ
第二十九條 寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜
種財産ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ主務大臣其ノ財
産ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ
前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付之ヲ準用ス

第五章 臺帳

第三十條 國有財産ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ
於テ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ
備ヘ各省ニハ其ノ總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條 國有財産ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載

スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

一 種目

二 所在又ハ所屬

三 數量

四 價格

五 得喪變更ノ年月日及事由

六 其ノ他必要ナル事項

第三十二條

國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額、相續税ノ物納ニ係ルモノハ收納價格ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額

二 立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込價格

三 建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築費、製造費又ハ見込價格

四 權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲クルモノハ見込價格、第五號ニ掲クルモノハ拂込金額又ハ出資金額

第三十三條 土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ立木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ノ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル

前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計及通信事業特別會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三十四條 作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格ニ依ルヘシ

第六章 計算書及報告書

第三十五條

各省大臣ハ會計検査院ニ證明ノ爲國有財産ノ増減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十六條

各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産増減報告書ニ基キ國有財産増減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産増減報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第三十七條

各省大臣ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七章 雜則

第三十八條

本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條

第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ様式及送付期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條

前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條

本令ニ定ムル帳簿及書類ノ様式ニハ國防上祕密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附 則

第四十二條

本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條

左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達皇城周圍内外ノ塹壘等修繕改築ニ關スル件

明治八年第四百四十六號達

明治八年第四百九十八號達

明治九年第四百六十六號達

明治十三年第六號達

明治十三年七月八日達皇城周圍内外ノ渾墨外岸接近ノ官有地へ家屋等
建築ニ關スル件

明治十四年第十號達

明治十六年第四十五號達

官有地特別處分規則

官有財產管理規則

官有地取扱規則

明治二十四年勅令第十五號

明治二十七年勅令第九十二號

明治三十六年勅令第九十六號

明治三十九年勅令第二百二十號

明治四十一年勅令第一百十九號

明治四十二年勅令第七十號

大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條 本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財產ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條 本令施行ノ際國有財產ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第四十六條 各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財產現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條 前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル

事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

○國有財産法施行期日(大正十一年勅令第六十一號)

國有財産法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東州國有財産令(昭和十二年勅令第四十八號
改正昭和十二年第六百八十五號)

關東州國有財産令

第一條 關東州ニ於ケル國有財産ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ
外國有財産法、國有財産法施行令及昭和二年法律第一號ニ依ル但シ國
有財産法第十三條及第二十四條並ニ國有財産法施行令第二條、第四條
乃至第六條、第十四條、第十九條、第二十八條及第二十九條ノ規定ハ
此ノ限ニ在ラス

第二條 關東局ニ屬スル國有財産ニ關スル事務ハ滿洲國駐劄特命全權大
使之ヲ管理スヘシ

第三條 各省大臣公用財産ノ用途ヲ廢止セントスルトキハ豫メ之ヲ大使
及大藏大臣ニ通知シ特ニ大使ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後
遲滯ナク之ヲ大使ニ引繼クヘシ但シ其ノ用途廢止ト同時ニ國有財産タ
ルノ性質ヲ失フモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

大使前項ノ規定ニ依リ引繼ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ
通知スヘシ

第四條 前條ノ規定ニ依リ引繼ヲ受ケタル財産又ハ之ト交換シタル財産
ハ國有財産整理資金ノ爲大使之ヲ管理スヘシ但シ大使大藏大臣ト協定
シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 大使各省大臣ノ管理ニ屬スル國有財産ノ管理換ヲ受ケントスル
トキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

各省大臣大使ノ管理ニ屬スル國有財産ノ管理換ヲ受ケントスルトキハ
大使及大藏大臣ニ協議スヘシ

第六條 大使國有財産整理資金ノ爲管理スル雜種財産ヲ公用財産若ハ營

林財産ト爲サントスルトキ又ハ讓與、交換若ハ無償ニテ貸付セントスルトキハ大藏大臣ニ協議スヘシ

第七條 雜種財産ハ營利ヲ目的トセサル公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲必要アルトキハ國有財産法第五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該事業者ニ讓與スルコトヲ得

第八條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ稅務署長又ハ民政署長ニ委囑スヘシ
前項ニ規定スル委囑アリタルトキハ稅務署長又ハ民政署長ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

國有財産法施行令第十五條乃至第十八條中當該官廳トアルハ前項ノ規定ニ依リ境界査定ヲ施行スヘキ稅務署長又ハ民政署長トス

第九條 國有財産法第十二條ノ公告ハ關東局報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係アル市長又ハ會長ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第十條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

第十一條 大使ハ其ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付每會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

大使ハ其ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年八月三十一日迄ニ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

第十二條 國有財産法施行令第三十八條ニ規定スル事項ハ大使ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付テハ大使大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第十三條 國有財産法第三條ノ規定ハ關東局ニ屬スル國有財産ニ付之ヲ適用セス

國有財産法施行令第三條、第八條但書及第三十八條ノ規定ハ大使ノ管理ニ屬スル國有財産ニ付之ヲ適用セス

第十四條 大使ノ管理ニ屬スル國有財產ニ付テハ國有財產法第六條中法律トアルハ勅令、國有財產法施行令第一條中所管大臣又ハ第三十五條中各省大臣トアルハ大使、同令第三十條中所管ノ各省又ハ各省トアルハ關東局トス

附 則

第十五條 本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財產ハ第三條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大使ニ引繼クヘシ

第十七條 鹽田、造林又ハ牧野經營ニ關シ大使ノ定メタル命令中國有財產ノ無償貸付又ハ無償使用ニ關スル規定ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ本令ニ拘ラス當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第十八條 雜種財產ハ國有財產法第七條第一項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外當分ノ内土地及土地ノ定著物ニ限り帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ之ヲ

他ノ土地及土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

國有財產法第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十九條 本令施行前國有財產ノ使用又ハ貸付ニ關シ爲シタル處分又ハ契約ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ效力ヲ有スルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十條 國有財產ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十一條 本令施行ノ際國有財產ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖モ爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ國有財產法施行令第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第二十二條 國有財產現在額報告書ノ第一回分ハ昭和十二年三月三十一日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

○南洋群島國有財產令(昭和十二年勅令第百一號)

南洋群島國有財產令

第一條 南洋群島ニ於ケル國有財產ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財產法及國有財產法施行令ニ依ル但シ國有財產法第十三條及第二十四條並ニ國有財產法施行令第二條、第四條乃至第六條、第十四條、第十九條、第二十八條及第二十九條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 南洋廳ニ屬スル國有財產ニ關スル事務ハ南洋廳長官ヲシテ之ヲ管理セシム

第三條 各省大臣公用財產ノ用途ヲ廢止セントスルトキハ豫メ之ヲ南洋廳長官及大藏大臣ニ通知シ特ニ南洋廳長官ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ南洋廳長官ニ引繼クヘシ但シ其ノ用途廢止ト同時ニ國有財產タルノ性質ヲ失フモノハ此ノ限ニ在ラス

南洋廳長官前項ノ規定ニ依リ引繼ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏

大臣ニ通知スヘシ

第四條 前條ノ規定ニ依リ引繼ヲ受ケタル財產又ハ之ト交換シタル財產ハ國有財產整理資金ノ爲南洋廳長官ヲシテ之ヲ管理セシム但シ南洋廳長官大藏大臣ト協定シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 南洋廳長官各省大臣ノ管理ニ屬スル國有財產ノ管理換ヲ受ケントスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

各省大臣南洋廳長官ノ管理スル國有財產ノ管理換ヲ受ケントスルトキハ南洋廳長官及大藏大臣ニ協議スヘシ

第六條 南洋廳長官國有財產整理資金ノ爲管理スル雜種財產ヲ公用財產若ハ營林財產ト爲サントスルトキ又ハ讓與、交換若ハ無償ニテ貸付セントスルトキハ大藏大臣ニ協議スヘシ

第七條 雜種財產ハ營利ヲ目的トセサル公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲必要アルトキハ國有財產法第五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該事業者ニ讓與スルコトヲ得

第八條 國有財産法第二十一條乃至第二十三條及國有財産法施行令第二十三條乃至第二十七條ノ規定ハ公共用財産タル國有水面ノ埋立又ハ干拓ヲ爲サントスル者アル場合ニ付之ヲ準用ス

第九條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ南洋廳支廳長ニ委囑スヘシ
前項ニ規定スル委囑アリタルトキハ南洋廳支廳長ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

國有財産法施行令第十五條乃至第十八條中當該官廳トアルハ前項ノ規定ニ依リ境界査定ヲ施行スヘキ南洋廳支廳長トス

第十條 國有財産法第十二條ノ公告ハ南洋廳公報ヲ以テ之ヲ爲シ且揭示其ノ他ノ方法ニ依リ公示スヘシ

第十一條 南洋廳長官ハ其ノ管理スル國有財産ニ付毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ拓務大臣

ニ送付スヘシ

南洋廳長官ハ其ノ管理スル國有財産ニ付毎五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年八月三十一日迄ニ之ヲ拓務大臣ニ送付スヘシ

第十二條 國有財産法施行令第三十八條ニ規定スル事項ハ南洋廳長官ノ管理スル國有財産ニ付テハ南洋廳長官大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第十三條 國有財産法施行令第三條、第八條但書及第三十八條ノ規定ハ南洋廳長官ノ管理スル國有財産ニ付之ヲ適用ス

第十四條 南洋廳長官ノ管理スル國有財産ニ付テハ國有財産法第六條中法律トアルハ勅令、國有財産法施行令第一條中所管大臣又ハ第三十五條中各省大臣トアルハ南洋廳長官、同令第三十條中所管ノ各省又ハ各省トアルハ南洋廳トス

附 則

第十五條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島國有財産令

第十六條 國有財産ノ境界査定ニ關シテハ當分ノ内本令ニ拘ラス南洋群島土地調査令ニ依ル

第十七條 本令施行前國有財産ニ關シ爲シタル處分又ハ契約ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ效力ヲ有スルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第十八條 南洋廳長官ノ指定スル區域ニ在ル雜種財産タル土地ハ拓殖上必要アル場合ニ限り當分ノ内本令ニ拘ラス南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ讓與シ又ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

前項ノ區域ハ南洋廳長官之ヲ告示スヘシ

第十九條 本令施行前南洋廳長官ノ許可ヲ受ケ水面ノ埋立又ハ干拓ヲ爲シタル者ニ對シテハ其ノ埋立又ハ干拓ヲ爲シタル國有財産タル土地ヲ讓與シ又ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第二十條 國有財産ノ賣拂又ハ貸付ハ當分ノ内左ニ掲クル場合ニ限り隨意契約ニ依ルコトヲ得

一 農業、林業、畜産業、鑛業又ハ漁業ヲ營ム者ニ對シ其ノ事業ノ爲

必要ナル土地ヲ賣拂又ハ貸付スルトキ

二 南洋廳長官ノ定ムル重要産業ヲ營ム者ニ對シ其ノ事業ノ爲必要ナル土地ヲ賣拂又ハ貸付スルトキ

三 市街地計畫ノ確定シタル市街豫定地ヲ特別ノ條件ヲ附シ賣拂又ハ貸付スルトキ

第二十一條 國有財産現在額報告書ノ第一回分ハ昭和十二年三月三十一日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二十二條 本令中國有財産ノ臺帳、計算書及報告書ニ關スル規定ハ實地調査ヲ了ラサル財産ニ付之ヲ適用セス

第二十三條 本令施行ノ際國有財産ノ臺帳ニ登録スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

● 附 錄

- 貴族院事務局官制
- 貴族院衆議院守衛定員及給與令
- 貴族院事務局ニ臨時守衛ヲ置クノ件
- 貴族院事務局分課規程
- 圖書閱覽竝借覽規則

○貴族院事務局官制

明治二十三年七月勅令第百二十一號○改正明治二十四年第九十九號、第一百六號、同二十六年第百六十五號、同三十年第百四十九號、同三十一年第百二十七號、同三十六年第百五十五號、同四十二年第百三十二號、同三十二年第百三十五號、同五年第百四十八號、同七年第百四十七號、同八年第百七十八號、同九年第百三十一號、同十年第百九十一號、同十二年第百五十三號、同十三年第百九十號、同十五年第百五十八號、昭和六年第七十三號、同七年第百二十九號、第三百十九號、同九年第百五十五號、同十二年第百五十六號、第百五十一號、同十五年第百六十五號、同十七年第百四十四號、第七百六十七號

第二條 貴族院事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

| | |
|------|----|
| 書記官長 | 一人 |
| 書記官 | 六人 |
| 事務官 | 三人 |
| 理事官 | 一人 |
| 速記士 | 二人 |
| 專任 | 專任 |

附錄

守衛長 專任 二人

屬 專任 二十八人

技手 專任 一人

速記技手 專任 六十二人

守衛副長 專任 五人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス
局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計
警務等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第四條ノ二 事務官及理事官ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ事務ヲ掌
ル

第四條ノ三 速記士ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ速記ニ關スル事務
ヲ掌ル

第四條ノ四 守衛長ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ警務ヲ掌リ守衛副
長及守衛ヲ指揮監督ス

第五條 屬、技手及速記技手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其
ノ事務又ハ技術ニ從フ

第六條 削除

第七條 守衛副長ハ判任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ警務ニ從ヒ守衛ヲ指
揮監督ス

○貴族院衆議院守衛
定員及給與令

明治四十年三月勅令第六十二號○改正明治四十二年
第二百十號、大正三年第四十三號、同五年第六十
號、同八年第八十號、同九年第三十三號、同十
年第二十三號、同十二年第二百五十五號、同十三
年第四號、第三百九十二號、同十四年第三百二十一號、
昭和六年第七十五號、同七年第三百二十一號、同十一
年第四百三十七號、同十二年第二百十八號、同十七年
第七百六十七號

第一條 守衛ノ定員ハ貴族院專任五十九人、衆議院專任七十六人ト
ス

前項定員ノ外議會開期中ニ限り貴族院專任百二十九人、衆議院專任百三十五人ヲ増置スルコトヲ得

第二條 守衛ノ月俸ハ三十圓乃至八十圓トス

最上額ヲ受ケ二年ヲ超エ事務練熟優等ナル守衛ニハ月額十圓以内ヲ加給スルコトヲ得

第三條 削除

第四條 月俸ノ増給ハ十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 守衛班長タル守衛及通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル守衛ニハ前條ノ規定ヲ適用セス特別ノ事由アル場合ニ於ケル守衛ノ増給ニ付亦同シ

第五條ノ二 通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル守衛ニハ一箇月二十圓以内ノ特別手当ヲ給スルコトヲ得

第五條ノ三 議會開期中非番ノ日又ハ常勤時間外ニ於テ勤務ニ服シタル守衛ニハ一日二圓以内ノ勤務手当ヲ給スルコトヲ得

第六條 守衛ニハ一箇月十圓以内ノ宿料ヲ給スルコトヲ得

第七條 月俸ハ新任、増俸、減俸及復職ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ退職ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄日割ヲ以テ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ全額ヲ給ス

一 職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ因リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル者

二 身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ因リ退職ヲ命セラレタル者

三 退職ヲ命セラレタル者

四 在職中死亡シタル者

退職當月復職シタル者ニハ其ノ月ノ月俸ハ更ニ之ヲ給セス

第八條 退職給ハ退職ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第九條 病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 本令ニ依ル給與細則ハ貴族院書記官長及衆議院書記官長各之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
貴族院衆議院守衛定員並俸給令ハ之ヲ廢止ス
本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル月俸額ヲ給セララルモ
ノトス

○貴族院事務局ニ臨時守衛ヲ置クノ件(昭和十五年七月十日勅令第四百五十九號)
貴族院事務局ニ臨時守衛專任三十人ヲ置ク

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○貴族院事務局分課規程

大正二年六月十八日○改正同七年六月二十一日、昭和十二年六月十四日、同十三年八月十一日、同十七年三月二十五日、同十二年十二月二十七日、同十九年一月十四日、同二十年十二月十日

第一條 貴族院事務局ニ左ノ五課ヲ置ク

- 一 議事課
- 二 委員課
- 三 速記課
- 四 庶務課
- 五 削除
- 六 警務課

第二條 議事課ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 議院ノ會議ニ關スル事項
- 二 削除
- 三 各部ニ關スル事項
- 四 議事日程ノ調製、報告及發言通告ニ關スル事項
- 五 議案其ノ他會議ニ關スル文書ノ取扱並印刷配付ニ關スル事項
- 六 議員ノ闕席及請暇ニ關スル事項

附錄

七 議事録、議決原本其ノ他議事ニ關スル文書ノ調製竝取扱ニ關スル事項

八 先例録編纂ニ關スル事項

第三條 委員課ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 委員會ノ會議ニ關スル事項

二 請願竝資格及選舉爭訟ニ關スル事項

三 委員會會議録其ノ他委員會ニ關スル文書調製ニ關スル事項

四 委員會先例録編纂ニ關スル事項

第三條ノ二 速記課ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 議院ノ會議及委員會會議ノ速記竝速記録編製ニ關スル事項

二 速記者養成ニ關スル事項

第四條 庶務課ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 議員ノ身分竝其ノ辭職又ハ補闕選舉ノ上奏ニ關スル事項

二 職員ノ身分及進退ニ關スル事項

三 議院、議長、副議長ノ公印及官印ノ保管ニ關スル事項

四 文書ノ接受、發送ニ關スル事項

五 官報報告及統計ニ關スル事項

六 削除

七 儀式ニ關スル事項

八 會計用度及國有財産保管ニ關スル事項

九 削除

十 文庫管理ニ關スル事項

十一 公文書類、圖書及内外新聞雜誌ノ出納ニ關スル事項

十二 削除

十三 貴族院彙報ノ刊行ニ關スル事項

十四 他課部ノ分掌ニ屬セサル事務ニ關スル事項

第四條ノ二 削除

第四條ノ三 警務課ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 警察、取締、衛生及參觀ニ關スル事項
- 二 傍聽券、入場券、通院券及徽章ニ關スル事項
- 三 傭人ノ監督ニ關スル事項
- 四 書類ノ受付、送付及面會人ニ關スル事項

第五條 各課ニ課長ヲ置キ書記官ヲ以テ之ニ充ツ

第五條ノ二 貴族院事務局ニ調査部ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 議院制度ノ調査ニ關スル事項
 - 二 議案ノ提出竝審査ニ必要ナル資料ノ蒐集ニ關スル事項
 - 三 各國議會ニ於ケル重要法律案其ノ他ノ調査ニ關スル事項
 - 四 貴族院要覽其ノ他議院ニ關スル參考書類ノ編輯ニ關スル事項
 - 五 貴族院調査會ニ關スル事項
 - 六 貴族院五十年史編纂ニ關スル事項
- 第五條ノ三 調査部ニ左ノ三課ヲ置ク

一 第一課

二 第二課

三 第三課

第五條ノ四 調査部第一課ニ於テハ左ノ調査事務ヲ掌ル

- 一 内閣及大藏省ノ所管事項ニ關スル事項
- 二 農林省及商工省ノ所管事項ニ關スル事項
- 三 部長ノ特ニ指定スル事項
- 四 部内他課ノ主管ニ屬セサル事項

第五條ノ五 調査部第二課ニ於テハ左ノ調査事務ヲ掌ル

- 一 外務省ノ所管事項ニ關スル事項
 - 二 内務省、司法省、文部省及厚生省ノ所管事項ニ關スル事項
- 第五條ノ六 調査部第三課ニ於テハ左ノ調査事務ヲ掌ル
- 一 第一復員省及第二復員省ノ所管事項ニ關スル事項
 - 二 運輸省ノ所管事項ニ關スル事項

第五條ノ七 調査部ニ部長ヲ置キ書記官長ヲ以テ之ニ充ツ
 第五條ノ八 調査部各課ニ課長ヲ置キ書記官ヲ以テ之ニ充ツ
 第六條 各書記官ハ議場ニ於テ議院ノ會議ニ關スル事務ニ從事ス

○圖書閱覽並借覽規則(大正十四年七月十五日)

第一條 本院圖書係所管ノ圖書ヲ閱覽又ハ借覽シ得ヘキ者ハ貴族院議員、衆議院議員及本院判任官以上ノ職員ニ限ル但シ特ニ庶務課長ノ承認ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 圖書ヲ閱覽セムトスル者ハ其ノ旨圖書係ニ申出テ其ノ承認ヲ得ヘシ

閱覽ハ本院圖書閱覽室ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス但シ特ニ圖書係ノ承認ヲ得テ本院内ニ於テ閱覽スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 圖書ヲ借覽セムトスル者ハ圖書借覽證用紙ニ所定ノ事項ヲ記入シ署名捺印スヘシ

公務上ノ必要ニ依リ各課ニ圖書ヲ常備セムトスルトキハ該課主任者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 貴重圖書ト定メタルモノ、辭書事彙、法典其ノ他特ニ閱覽室ニ常置スヘキ圖書、新刊ノ逐時刊行書又ハ定期刊行書ハ之ヲ借覽スルトヲ得ス

第五條 借覽期間ハ一冊ニ付キ一回六十日ヲ超ユルコトヲ得ス
 前項ノ期間經過後尙引續キ其ノ圖書ヲ借覽スルノ必要アルトキハ期間終了ノ日ヨリ五日以内ニ期間ノ更新ヲ圖書係ニ申出テ其ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第六條 借覽部冊數ハ一名ニ付キ一借覽期間ノ進行中七部二十冊ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 第四條ノ圖書ヲ借覽シ又前二條ノ制限ヲ超エテ圖書ヲ借覽スルノ必要アルトキハ豫メ理由ヲ具シテ庶務課長ノ承認ヲ受クヘシ

第八條 各課ニ於テ公務上常備ヲ要スル圖書ニ在リテハ第四條、第五條及第六條ノ規定ヲ適用セス

第九條 借覽ノ圖書ハ期間内ト雖必要ノ場合ニ於テハ之ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第十條 閱覽又ハ借覽ノ圖書ハ之ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 閱覽又ハ借覽ノ圖書ヲ紛失シ又ハ甚シク毀損シタル者ニハ同一ノ圖書若クハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ辨償セシム

第十二條 閱覽ノ圖書ハ閱覽ノ當日中ニ之ヲ返納スヘシ

借覽ノ圖書ハ借覽期間終了ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ返納スヘシ

第九條ニ依リ返納ヲ請求セラレタルトキハ遲滞ナク之ヲ返納スヘシ

第十三條 借覽者第一條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ其ノトキヨリ五日以内ニ借覽ノ圖書ヲ返納スヘシ

第十四條 前二條ニ依ル返納ヲ怠リタル者アルトキハ閱覽又ハ借覽圖書ヲ直ニ返納スヘキ旨ヲ催告スヘシ

前項ノ催告ヲ受ケタル者ニハ其ノ返納ヲ爲スニ至ル迄新ナル貸出ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ圖書ヲ紛失シタルモノト看做シ第十一條ノ規定ヲ適用スルコトアルヘシ

貴族院議事法規索引

貴族院議事法規索引凡例

- 一 (憲)ハ憲法、(令)ハ貴族院令、(議)ハ議院法、(規)ハ貴族院規則、(豫)ハ豫算案議定細則、(決)ハ決算議定細則、(協)ハ兩院協議會規程、(資)ハ貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則、(貴)ハ貴族院令第五條第三項ノ議決ニ關ル規則、(繼)ハ閉會中議案審查ノ繼續ニ關スル規則、(伯)ハ貴族院伯子男爵議員選舉規則、(帝)ハ貴族院帝國學士院會員議員互選規則、(多)ハ貴族院多額納稅者議員互選規則ノ略字トス
- 一 數事項ニ涉リ關係ヲ有スルモノハ之ヲ各事項ノ下ニ重出ス例ハ議長ノ祕密會議ヲ發議シ得ルヤ否ヤハ「議長」「祕密會」及「發議」ノ各項ノ下ニ之ヲ索知シ得ルカ如シ但シ事ノ明瞭ニシテ他項ノ下ニ重出スルヲ要セサルモノハ之ヲ重モナル事項ノ下ニ掲クルニ止ム

貴族院議事法規索引

目次

| | | | | |
|--------|-----|----|--------------|-----|
| ○帝國議會 | 組織 | 一頁 | 部屬 | 三頁 |
| | 召集 | 一頁 | 部長 | 三頁 |
| | 成立 | 一頁 | 理事 | 四頁 |
| | 開會 | 一頁 | 議席 | 四頁 |
| | 停會 | 一頁 | ○議長、副議長、假議長 | |
| | 閉會 | 一頁 | 議長ノ專行ニ屬ス | 四頁 |
| | 會期 | 二頁 | ル場合 | 四頁 |
| | 臨時會 | 二頁 | 必ス議院ノ議決ヲ | 一〇頁 |
| | 經費 | 二頁 | 經ヘキ場合 | 一〇頁 |
| ○貴族院 | | | 異議アルトキ議院 | 一〇頁 |
| | | | ノ決議ヲ經ヘキ場 | 一〇頁 |
| ○部屬及議席 | | | 合 | |
| | | | 議長ヲ經由スヘキ | 一一頁 |
| | | | 場合 | 一一頁 |
| | | | 雜則 | 一二頁 |
| | | | 協會議長、副議長、假議長 | 一三頁 |
| | | | ○議員 | |
| | | | 通則 | 一三頁 |
| | | | 闕席 | 一四頁 |
| | | | 請暇 | 一四頁 |
| | | | 辭職 | 一四頁 |
| | | | 出席停止 | 一四頁 |
| | | | 除名 | 一五頁 |
| | | | 位列停止 | 一五頁 |
| | | | 歳費 | 一五頁 |
| | | | ○書記官長、書記官 | |
| | | | 書記官長 | 一五頁 |

議事法規索引 目次

| | |
|-----------|-----|
| 書記官 | 一五頁 |
| ○委員、委員會 | |
| 通則 | 一六頁 |
| 全院委員 | |
| 委員、委員會 | 一六頁 |
| 委員長 | 一七頁 |
| 常任委員、特別委員 | |
| 委員、委員會 | 一七頁 |
| 委員長、副委員長 | 一八頁 |
| 繼續委員 | 一九頁 |
| 分科、主查 | |
| 分科 | 一九頁 |
| 主查、副主查 | 一九頁 |
| 委員審查、付託 | 一九頁 |
| 委員少數者意見 | 二〇頁 |
| ○會議 | |

| | |
|---------------|-----|
| 通則 | 二〇頁 |
| 開議、散會、延會、會議中止 | 二〇頁 |
| 開議 | 二〇頁 |
| 散會、延會 | 二〇頁 |
| 會議中止、議事中止 | 二二頁 |
| 議事日程 | 二二頁 |
| 發議、動議 | 二二頁 |
| 發議 | 二二頁 |
| 動議 | 二二頁 |
| 朗讀 | 二三頁 |
| 發言 | 二三頁 |
| 通告 | 二四頁 |
| 演說 | 二四頁 |
| 討論 | 二四頁 |
| 質疑應答、注意 | 二五頁 |
| 喚起 | 二五頁 |

| | |
|------------|-----|
| 報告 | 二六頁 |
| 修正 | 二六頁 |
| 表決 | |
| 通則 | 二七頁 |
| 氏名點呼 | 二八頁 |
| 記名投票 | 二八頁 |
| 無名投票 | 二九頁 |
| 定規ノ贊成數 | 二九頁 |
| 秘密會 | 三〇頁 |
| 會議錄、議事錄、速記 | |
| 會議錄 | 三一頁 |
| 議事錄 | 三一頁 |
| 速記錄 | 三一頁 |
| 議案 | |
| 通則 | 三一頁 |
| 政府案 | 三二頁 |

| | |
|------------------------------|-----|
| 議院提出案 | 三二頁 |
| 議員提出案 | 三二頁 |
| 法律案 | 三二頁 |
| 豫算案 | 三三頁 |
| 憲法上ノ大權ニ基ク既定歲出外ニ件歲出 | 三三頁 |
| 國債及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約 | 三四頁 |
| 決算 | 三四頁 |
| ○國務大臣及政府委員 | 三四頁 |
| 質問、答辯 | |
| 質問 | 三五頁 |
| 答辯 | 三五頁 |
| 上奏、奉答 | 三六頁 |
| 建議、決議 | 三六頁 |

| | |
|-----------|-----|
| ○請願 | 三七頁 |
| 議院ト人民及官廳 | |
| 地方議會トノ關係 | 三八頁 |
| 資格及選舉爭訟判決 | |
| 通則 | 三八頁 |
| 出訴期限 | 三九頁 |
| 貴族院令五條 | 三九頁 |
| 三項ノ議決 | 三九頁 |
| 懲罰 | 四〇頁 |
| 紀律及警察 | |
| 通則 | 四一頁 |
| 守衛 | 四二頁 |
| 警察官吏 | 四二頁 |
| 傍聽 | 四三頁 |
| 兩院協議會 | 四三頁 |

| | |
|------------|-----|
| ○憲法、皇室典範改正 | 四四頁 |
| 內部整理規則 | 四五頁 |
| 立法權 | 四五頁 |
| 緊急勅令 | 四五頁 |

貴族院議事法規索引いろは別

目次

| | | | |
|-------------------|-----|-------|-----|
| 委員、委員會、通則 | 一六頁 | 發言 | 二二頁 |
| 委員審査、付託 | 一九頁 | 法律案 | 三二頁 |
| 委員少數者意見 | 二〇頁 | 報告 | 二六頁 |
| 位列停止 | 一五頁 | 傍聽 | 四三頁 |
| 異議アルトキ議院ノ決議ヲ經ヘキ場合 | 一〇頁 | 閉會 | 二頁 |
| 朗讀 | 二三頁 | 讀會 | 二三頁 |
| 發議 | 二二頁 | 動議 | 二二頁 |
| | | 討論 | 二四頁 |
| | | 答辯 | 三五頁 |
| | | 懲罰 | 四〇頁 |
| | | 除名 | 一五頁 |
| | | 臨時會 | 二頁 |
| | | 兩院協議會 | 四三頁 |
| | | 理事 | 四頁 |
| | | 立方權 | 四五頁 |
| | | 開會 | 一頁 |
| | | 開議 | 二〇頁 |

議事法規索引いろは別 目次

| | |
|---------------|-----|
| 必ス議院ノ議決ヲ經ヘキ場合 | 一〇頁 |
| 豫算案 | 三三頁 |
| 速記録 | 三二頁 |
| 通告 | 二四頁 |
| 内部整理規則 | 四五頁 |
| 無名投票 | 二九頁 |
| 會期 | 二頁 |
| 會議通則 | 二〇頁 |
| 會議中止 | 二二頁 |

| | |
|-----------|-----|
| 會議錄 | 三一頁 |
| 經費 | 二頁 |
| 闕席 | 一四頁 |
| 繼續委員 | 一九頁 |
| 決算 | 三四頁 |
| 建議、決議 | 三六頁 |
| 警察官吏 | 四二頁 |
| 憲法、皇室典範改正 | 四四頁 |
| 部屬 | 三頁 |
| 部長 | 三頁 |
| 分科 | 一九頁 |
| 國務大臣及政府委員 | 三四頁 |

| | |
|------------------------------|-----|
| 國債及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約 | 三四頁 |
| 演說 | 二四頁 |
| 延會 | 二〇頁 |
| 帝國議會組織 | 一頁 |
| 停會 | 一頁 |
| 定規ノ贊成數 | 二九頁 |
| 歳費 | 一五頁 |
| 散會 | 二〇頁 |
| 雜則 | 一二頁 |
| 議員通則 | 一三頁 |
| 議院提出案 | 三二頁 |

| | |
|---------------------|-----|
| 議員提出案 | 三三頁 |
| 議院、人民及官廳地方議會トノ關係 | 三八頁 |
| 議長、副議長、假議長ノ專行ニ屬スル場合 | 四頁 |
| 議長ヲ經由スヘキ場合 | 一一頁 |
| 議案通則 | 三一頁 |
| 協議會議長、副議長、假議長 | 一三頁 |
| 貴族院 | 二頁 |
| 議席 | 四頁 |
| 記名投票 | 二八頁 |
| 議事中止 | 二二頁 |
| 議事日程 | 二二頁 |
| 議事錄 | 三一頁 |
| 既定歳出外二件歳出 | 三三頁 |

| | |
|---------------|-----|
| 貴族院令五條三項ノ議決 | 三九頁 |
| 紀律及警察、通則 | 四一頁 |
| 緊急勅令 | 四五頁 |
| 召集 | 一頁 |
| 出席停止 | 一四頁 |
| 書記官長 | 一五頁 |
| 書記官 | 一五頁 |
| 常任、特別委員、委員會 | 一七頁 |
| 常任、特別委員長、副委員長 | 一八頁 |
| 主査、副主査 | 一九頁 |
| 質疑應答、注意喚起 | 二五頁 |
| 修正 | 二六頁 |
| 氏名點呼 | 二八頁 |
| 質問 | 三五頁 |

| | |
|-------------|-----|
| 資格及選舉爭訟判決通則 | 三八頁 |
| 出訴期限 | 三九頁 |
| 上奏、奉答 | 三六頁 |
| 辭職 | 一四頁 |
| 出席停止 | 一四頁 |
| 守衛 | 四二頁 |
| 祕密會 | 三〇頁 |
| 表決通則 | 二七頁 |
| 成立 | 一頁 |
| 請暇 | 一四頁 |
| 全院委員、委員會 | 一六頁 |
| 全院委員長 | 一七頁 |
| 政府案 | 三二頁 |
| 請願 | 三七頁 |

議事法規索引いろは別 目次

貴族院議事法規索引

○帝國議會

組織 (憲三三)

召集 (憲七) 天皇ハ議會ヲ召集ス。(憲四一) 議會ハ毎年召集ス。(憲四三) 臨時會。(憲四五) 解散後ノ議會ハ五箇月以内ニ召集ス。(議一) 召集ノ勅諭ハ四十日前ニ發布ス。(議二、規一、二) 議員ノ參集。(議九九) 議長ノ招狀、應セサル者ノ處分。

成立 (憲三三) 帝國議會。(規一二) 貴族院。

開會 (憲七) 天皇ハ開會ヲ命ス。(憲四四ノ一) 兩院同時ニ行フ。(議五) 開院式。

停會 (憲七) 天皇ハ停會ヲ命ス。(憲四四) 兩院ノ停會、貴族院ノ停會。

(議三三ノ一) 兩院ノ停會日數。(議三三ノ二、五四) 兩院停會後ノ會議ニ於テハ前會ノ議事ヲ繼續ス。(規八九) 停會後ノ會議ニ於ケル前發言ノ繼續。

閉會

(憲七) 天皇ハ閉會ヲ命ス。(憲四四ノ二) 兩院同時ニ行フ。(議一

一) 閉會間ノ議長職務。(議三五) 議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ閉會後ノ議會ニ繼續セス。(議三六) 閉會ノ式。

會期

(憲四二) 三箇月。(憲四三ノ二) 臨時會。(憲四四) 延長ハ兩院同時ニ行フ。

臨時會

(憲四三)。(規六) 臨時會ノ部屬。

經費

(議一八)。

○貴族院

(憲三四、令一) 組織。(令五ノ三、四) 勅選議員ノ職務ニ堪ヘサルニ至リタ

ル旨ヲ議決シ上奏シテ勅裁ヲ請フ。同議決ノ規則ハ上奏シテ裁可ヲ請フ。(令八) 諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ヲ議ス。(令九) 資格及選舉ノ爭訟ヲ判決ス。同判決規則ハ上奏シテ裁可ヲ請フ。(令一二) 貴族院令ニ定ムルモノノ外議院法ニ依ル。(令一三) 貴族院令ノ改正ハ貴族院ノ議決ヲ要ス。(議五) 開院式々場。(規一三) 成立。

○部屬及議席

部屬

(議四、規五) 分割。(議二〇ノ三、規三四、三五) 常任委員ノ選舉。

(議九五ノ三) 部ニ於ケル懲罰事犯。(規六) 部屬ノ決定、臨時會ノ部屬。

(規一二) 部長理事俱ニ故障アルトキ出席ノ首席部員部長ノ職務ヲ行フ。

(規三八) 常任委員ノ補闕選舉。(議二〇ノ四、規五三ノ二、五四、一九六) 特別委員、協議委員ノ選舉、同上補闕選舉。(規一七九) 部員ノ懲罰動議提出權。

部長

(議四、規七) 互選。(議九五ノ三) 部ニ於ケル懲罰事犯ノ處分要

求。(規八、一〇)職務、辭任。(規二二)全院委員長ノ職務ヲ行フ。(規三六)常任委員ノ當選者ヲ議長ニ報告ス。
 理事 (規九、一〇、一一)互選、辭任、部長ノ代理。
 議席 (規四)。

○議長、副議長、假議長

議長ノ專行ニ屬スル場合 (議一〇)秩序ノ保持、議事ノ整理、議院ノ代表。(議一一)閉會中議院事務ノ指揮。(議一五)後任者勅任セラ
 ルルマテノ繼職。(議一七ノ一)書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ事務ヲ提理
 ス。(規一六五)秩序問題ノ裁決。(規二〇〇)議院規則疑義ノ裁決。「召集」
 (議九九)不參議員ノ招狀。(規二)召集ノ當日議員三分ノ一二充ツルトキ
 ハ議長著席ス。(規五ノ四)部屬確定後ノ部屬決定。「成立」(規一三)議院
 成立ノ通知。「開會、閉會」(議六)開院式ノ場合ニ於ケル議長ノ職務執行。

(議一一)閉會中議院事務ノ指揮。「闕席、請暇」(議九九)闕席議員ノ招狀。
 (議八一)一週間ニ超エサル請暇ノ許可。(議九九)請假期限ヲ過キタル議
 員ノ招狀。「委員、委員會、協議會」(議一二)委員會ニ臨席發言スルヲ得。
 (規五四、一九六)特別委員及協議委員ノ補闕選舉。(繼五)繼續委員決定
 ノ通知。(繼六、七)繼續委員辭任ノ許否、同上闕員ノ補充。(規五五)連繫
 事件ヲ同一委員ニ付託スルヲ得。(規二二三)全院委員會ヲ開クノ發議。(規
 二四ノ二)全院委員會ノ期日ヲ定ム(即時ニ開會)。(規二九ノ二)同上(議事
 セサルトキ)。(規二五ノ一)全院委員會ヲ開クトキハ議長退席ス。(規三〇)全院
 委員會ノ解會。(規四四ノ四)祕密ト認ムル委員會報告書ハ印刷配付セス。
 (議五七)協議會ニ出席シ發言スルヲ得。(協三)協議會初會ノ日時決定
 (兩院議長ノ協議ニ依ル)。「開議、散會、延會、會議中止、議事中止」(議八八)議場騷擾ナ
 ルトキハ會議ヲ中止シ又ハ閉鎖ス。(規五八)散會又ハ延會ノ宣告。(規五
 九)開議ノ宣告。(規六〇)延會ノ宣告。(議員定足數ニ)。(規六四)議事日程
 ニ時刻ヲ定メタル事件ノ會議ニ移ルトキハ議事ヲ中止ス。(規一七七)懲

議事法規索引(議長、副議長、假議長)

罰事犯アルトキハ會議ヲ中止シ又ハ犯人ヲ退場セシム。「議事日程」(議二六、規六二、六六)議事日程ノ調製、報告。(規六四)議事日程ニ時刻ヲ定メタル事件ノ會議ニ移ルトキハ議事ヲ中止ス。「發議」(議三七、三八)秘密會ノ發議。(規二三)全院委員會ヲ開クノ發議。「讀會」(規七八)逐條審議ノ順序變更。「朗讀」(規七三ノ二、七六ノ二、七九ノ二)省略。「發言」(議一二)議長ハ委員會ニ臨席發言スルヲ得。(議五七)議長ハ協議會ニ出席發言スルヲ得。(規八四)議員發言ノ順序。(規八六)通告ヲ爲ササル者ノ發言ノ許可。(規八七)發言ヲ求ムル先起立者ノ認定。(規九〇)議席發言ノ許可。(規九一)國務大臣政府委員席發言ノ許可。(規九二)登壇發言ノ命。「討論」(規九八)議長討論ニ與ルトキハ副議長代理ス。(規九九)議長討論ニ與リタルトキハ表決マテ復席スルヲ得ス。(規一〇一)討論終局ノ宣告。(規一〇四ノ一)討論終局ノ後未タ議題トナラサル修正案ノ報告。「報告」(議二六ノ一、規六二)議事日程ノ報告。(規五九)開議前ノ報告。(規一九五)議案受領ノ報告。(豫一)豫算案受領ノ報告。(決一)決算受領ノ報告。

告。「表決」(憲四七)議院ノ議事ニ於ケル終決權。(規一〇八ノ二)修正案表決ノ順序。(規一一四)表決ニ付スヘキ問題ノ宣告。(規一一六ノ一)起立表決結果ノ宣告。(規一一七)異議ナシト認ムルトキ可決ノ宣告。「記名投票」(規一一八)記名投票ノ執行。(規一二三)投票結果ノ宣告。「無名投票」(規一二〇)無名投票ノ執行。(規一二三)投票結果ノ宣告。「印刷配付」(規四四ノ四、五六)委員長報告(秘密ト認ムルモノヲ除ク)。(規六三)議事日程。(規六九、一〇六)發議案、修正動議。(規一四四ノ一)請願文書表。(豫一)豫算案。(豫八)豫算案委員長報告。(決一)決算。(決一〇)決算委員長報告。(資九、一四)資格及選舉爭訟審査報告。(貴七、八)貴族院令五條三項ノ規定ニ依ル決議案審査報告。「秘密會」(議三七、三八)秘密會ノ發議。(規一七六)傍聽人退場ノ命令。「議事録、速記録」(規一三一)署名又ハ記名捺印。(規一三三)取消ヲ命シタル發言ハ速記録ニ記載セス。「議案」(議三一)議案ノ奏上。(規六九、一〇六)發議案、修正動議ノ印刷配付。(規一九四)議案ノ傳達。(規一九五)議案受領ノ報告。(豫一)豫算案受領ノ報告及印刷

配付。(決一)決算受領ノ報告及印刷配付。「豫算、決算會議」(豫八)豫算
 委員長ノ報告アリタルトキハ豫算會議ヲ開ク。(豫一一)憲六七條ノ歲出
 廢除削減ニ付政府ノ同意要求ノ照會。(決二〇)決算委員長ノ報告アリタ
 ルトキハ決算會議ヲ開ク。「質問」(議四八、四九)質問主意書ノ受理轉送。
 「上奏、奏上、奉答」(令一〇ノ二)議員除名ノ上奏。(議三一)議案ノ奏上。
 (規一三五)謁見ノ奏請。(資一一、一四)判決ノ上奏。(伯一六ノ二)伯子男
 爵議員ノ補闕上奏。(帝二五)帝國學士院會員議員ノ補闕上奏。(多三九
 ノ一)多額納稅者議員ノ補闕上奏。「建議」(規一三六)建議書ノ提出。「請
 願」(議六三ノ二)請願委員ニ於テ規定ニ合ハスト認メタル請願書ノ却下。
 (規一四四ノ二)請願文書表ノ印刷配付。「資格及選舉爭訟判決」(資二ノ
 二、一四)訴狀ノ委員付託。(資九、一四)資格及選舉爭訟審査報告ノ配付、
 會議。(資一〇ノ一、一四)判決謄本ノ送達。(資一一、一四)被告議員ノ位
 列停止及上奏。(貴二)貴族院令五條三項ノ規定ニ依ル決議案ノ委員付託。
 (貴七、八)同上事件ヲ委員ニ於テ會議ニ付スヘシトスルトキ又ハ付スヘ

カラスト報告アリタル場合ニモ議員三十人以上ノ要求アルトキ其ノ報告
 書ノ配付、會議。(貴一〇ノ一)審査ヲ受クヘキ議員ノ會議ニ於ケル辯明
 ノ許可。(貴二)審査ヲ受ケタル議員ヘ議院ノ議決又ハ委員ノ決議確定ノ
 通知。「懲罰」(令一〇ノ二)議員除名ノ上奏。(議九五ノ二)懲罰事犯ヲ委
 員ニ付ス、同宣告。(規一五四)不敬又ハ無禮ノ辭表ヲ懲罰委員ニ付ス。(規
 一七七)懲罰事犯アルトキ會議ノ中止又ハ犯人退場ノ命令。(規一八二)懲
 罰犯人辯明又ハ代理辯明ノ許可。(規一八四)制止又ハ取消ノ命ニ從ハサ
 ル者ヲ懲罰委員ニ付ス。(規一八九)出席停止ノ議員議場ニ入ルトキ處分。
 (規一九二)懲罰ノ宣告。(規九三)懲罰事犯ト認ムル發言公布ノ禁止。「紀
 律及警察」(議一〇)秩序ノ保持、議事ノ整理、議院ノ代表。(議八五、規一
 五五、一五八)内部警察權ノ施行。(議八六)警察官吏ノ指揮。(議八七)警
 戒、制止、發言ノ取消及禁止、場外ヘ退去。(議八八)議場騷擾ナルニ因ル
 會議中止又ハ閉場。(議八九、規一七六)傍聽人ノ退場。(規一六〇)議場内
 杖ノ攜帶許可。(規一六四)號鈴。(規一六五)秩序問題ノ裁決。

必ス議院ノ議決ヲ經ヘキ場合 (議二七) 三讀會ノ順序省略ノ要求アリタルトキ。(議三七、三八) 秘密會議ノ發議アリタルトキ。(議八一、規一五一) 一週間ヲ超ユル請暇ノ許可。(議九五ノ二) 懲罰事犯ノ宣告。(規二三) 全院委員會ヲ開クノ發議アリタルトキ。(規四二、五六) 議院ノ會議時間ニ於テ委員會開會ノ許可。(規六五) 議事日程ノ變更、追加。(規七四ノ二、七四ノ三) 第二讀會ノ開否。(規七五、八〇) 讀會期日ノ短縮。(規八一) 第三讀會ニ於テ議案全體ノ可否。(規一〇二ノ一) 討論終局ノ動議表決。(規一〇四ノ一) 討論終局後修正案ニ付討論ヲ開クヘキヤ否ヤノ表決。(規一〇五) 質疑終局ノ動議表決。(規七一、一一〇ノ一) 發議案、修正動議撤回ノ許可。(規一四二) 請願至急ノ審査。(規一四四ノ二) 請願書ノ印刷配付。(規一四八) 請願書ノ朗讀。(規一五四) 不敬無禮ノ言辭アル辭表ノ處分。(規一八〇) 懲罰ノ動議ヲ委員ニ付スルトキ。

異議アルトキ議院ノ議決ヲ經ヘキ場合 (規七八) 逐條審

議ノ順序ニ關シ異議アルトキ(一人以上)。(規一二五) 逐條審議ニ關スル規定ニ依リ討論ノ場合其ノ表決ニ付異議アルトキ(一人以上)。(規一〇八ノ二) 修正案表決ノ順序ニ付異議アルトキ(一人以上)。(規一一六ノ一) 起立表決ノ結果ニ付異議アルトキ(反對者ヲ起立セシメ仍異議アルトキハ氏名點呼ヲ用ウ)。(規一一六ノ二) 氏名點呼ノ結果ニ付異議アルトキ(二十人以上)。(記名投票)。(規一三〇) 議事録記載ノ事實ニ對シ異議アルトキ。(規一三四ノ二) 速記録ノ訂正ニ對シ異議アルトキ(一人以上)。

議長ヲ經由スヘキ場合 (議四四) 委員會ヨリ政府委員ノ説明ヲ求ムルトキ。(議四八、四九) 議員ヨリ政府ニ對シ質問ヲ爲ストキ。(議五一ノ一) 上奏。(規一五三) 議員辭職ヲ奏請。(規一八三) 懲罰委員會本人及關係議員ヲ召喚訊問スルトキ。(資六、一四) 資格審査委員ヨリ證憑文書ヲ政府ニ要求スルトキ。(議八) 繼續委員ヨリ報告又ハ文書ヲ政府ニ要求スルトキ。

雜則 (令一一)任期。(議七)議長副議長ハ各、一員トス。(議一三)議長故障アルトキハ副議長代理ス。(議一四、規一四、一五)假議長。(議一九)歳費。(議一九ノ二)國有鐵道ノ無賃乗車。(議八二)闕席届ハ議長ニ差出ス。(議九〇)大臣、政府委員及議員ハ秩序ニ付議長ニ注意スルヲ得。(議九五ノ三)委員會又ハ部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ議長ニ報告シ處分ヲ求ム。(規五ノ三)議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス。(規二八)全院委員會終ルトキハ議長ノ復席ヲ求ム。(規二九ノ一)終ラサルトキ同上。(規三一)全院委員會ノ權限外ノ事件生スルトキハ議長ノ復席ヲ求ム。(規三六)常任委員當選者ハ部長ヨリ議長ニ報告ス。(規一四ノ二、五三ノ二、一九六)假議長、特別委員及協議委員ノ選舉ハ議長ニ委任スルヲ得。(規六九、一〇六)發議案、修正動議ハ議長ニ提出ス。(規七七ノ二)第二讀會ノ前修正案ヲ議長ニ提出スルヲ得。(規八四)書記官ハ通告ヲ議長ニ報告ス。(規九九)討論ニ與リタル議長ハ表決マテ復席スルヲ得ス。(規一五〇)請暇ノ許可ヲ得タル議員ハ出發及歸著届ヲ議長ニ差出ス。(規一八六)議長

ノ職權ヲ侮辱シタルモノノ處分。(豫七)豫算委員長ノ報告ハ議長ニ提出ス。(決九、一〇)決算委員會ノ決議ハ議長ニ報告ス。(協一六)協議會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ其ノ委員所屬議院ノ議長ニ報告シ處分ヲ求ム。(資二、一四)訴狀ハ議長ニ差出ス。(資九、一四)資格及選舉爭訟審査報告ハ議長ニ提出ス。(貴一)貴族院令五條三項ノ規定ニ依ル決議案ハ議長ニ提出ス。(貴七、八)同上審査報告ハ議長ニ提出ス。
協議會議長、副議長、假議長 (議五九、六〇)。(規一九九)。(協六)。(協七)。(協八)。(協一二)。(協一三)。(協一六)。

○議員

通則 (憲三四、令一)貴族院議員ノ種類。(憲三六、議七六)兩院ノ議員タルヲ得ス。(憲五二)發言及表決ニ付特權。(憲五三)逮捕ニ付特權。(令二)皇族。(令三)公侯爵。(令四)伯子男爵。(伯一七)同補闕議員。(令五)勅選議員。(令五ノ二)帝國學士院會員議員。(帝二七)同補闕議員。(令

六)多額納稅者議員。(多四〇)同補闕議員。(議一九)歲費及旅費。(議一九ノ二)國有鐵道ノ無賃乘車。(議四二)大臣及政府委員ノ發言ハ議員ノ演說ヲ中止セス。(規九〇、九二)發言ハ演壇ニ於テス但シ議長ノ許可アルトキ又ハ簡單ナル發言ハ其ノ席ニ於テス。(規一五)假議長選舉ヲ行フヘキ全院委員長故障アルトキ又ハ其ノ選舉前出席ノ首席議員其ノ職務ヲ行フ。(規四三、五六)委員會ハ議員ノ意見ヲ聞クヲ得。(規一〇〇)敬稱。(規一五九)服裝。

闕席 (議八二)屆。(議九九)議長ノ招狀、應セサル者ノ處分。

請暇 (議八一)許可。(議九九)期限經過ニ付議長ノ招狀、應セサル者ノ處分。(規一四九)請暇書、闕席屆書。(規一五〇)出發及歸著屆書。(規一五一)追加請暇書。(規一五二)請暇許可ノ失效。

辭職 (令三ノ二、三)。(規一五三、一五四)

出席停止 (議九六、規一八六、一九一)懲罰ニ由ルモノ。(議九九)

議長ノ招狀ニ應セサルニ由ルモノ。

除名 (令一〇)。(議九六)。(規一九〇、一九一)。

位列停止 (議八〇)。(資一一、一二、一四)。

歲費 (議一九)。

○書記官長、書記官

書記官長 (議一六)。(議一七)職務。(規一三〇)議事録ニ對シ議員ノ異議アルトキノ答辯。(規一三一)議事録ノ署名又ハ記名捺印。(規一六七、一七〇)傍聽券ノ配付。(資一〇、一四)判決謄本ノ作製。

書記官 (議一六)。(議一七)職務。(規五ノ一、三)部屬ノ抽籤。(規三二)全院委員會ニ於テハ書記官長ノ席ニ著キ其ノ職務ヲ行フ。(規八三、八四)通告、發言表。(規一一六)氏名點呼。(規一三一)議事録ノ署名又ハ記名捺印(書記官長代)。(規一九四)衆議院へ議案傳達。(協一四)協議會議(理トシテ)。

議事法規索引(議員○書記官長、書記官)

○委員、委員會

通則

(議二〇)種類。(議二四)經過及結果報告。(議四三)大臣及政府委員ハ何時ニテモ委員會ニ出席シ發言スルヲ得。(議四四)委員ヨリ政府委員ノ説明ヲ求ムルヲ得。(議九五)懲罰委員、同審査、委員會ニ於ケル懲罰事犯。(規一六)委員會ノ審査權限。(規一七)委員ハ委員會ニテ幾回ニテモ發言スルヲ得。(規一九)委員、正副委員長、正副主査ノ辭任。(規二〇ノ一)委員會ノ表決定數^(過半數)、委員長ノ終決權。(規一七八)懲罰事犯ニ因ル委員會ノ中止。(規一七九)委員ノ懲罰動議提出權。(規一八八)出席ヲ停止セラレタル委員ハ解任ス。

全院委員

〔委員、委員會〕(議二〇ノ二)組織。(議二二)開議定數^(三分以上)。(規二三)全院委員會ヲ開クノ發議^(議長又ハ十人以上發議)。(規二三、二四、二五)

開議ノ手續。(規二六)全院委員會ニ於ケル動議^(一人以上贊成)。(規二七)自ラ規則ヲ議決スルヲ得ス。(規二九)自ラ延會スルヲ得ス、議事終局セサルトキノ手續。(規三〇)議長ノ解會權。(規三二)書記官ハ書記官長ノ席ニ著キ其ノ職務ヲ行フ。〔委員長〕(議二一、規二一)任期、選舉。(規二五)假議長選舉ノ職務^(故障アルトキハ出席ノ首席議員其ノ職務ヲ行フ)。(議二四、規二八、二九ノ一)經過及結果報告。(規二二)故障アルトキハ部長其ノ職務ヲ行フ。(規二五ノ二)席。(規三一)全院委員會ノ權限外ノ事件生スルトキ議長ノ復席ヲ求メテ退席ス。

常任委員、特別委員

〔常任委員、委員會〕(議一二)議長ハ臨席發言スルヲ得、表決ノ數ニ入ラス。(議一〇ノ三、規三四、三五、三七)組織、分科、選舉、任期。(議二二)開議定數^(半數以上)。(議二三)議員ノ外傍聽ヲ禁ス、議員ノ傍聽ヲ禁スルヲ得。(議四六)大臣及政府委員ハ開會ノ通知。(規三三)種類及委員ノ數。(規三六)當選報告。(規三八)補闕選舉。(規三九)正副委員長互選、出席ノ首席委員互選事務ヲ行フ。(規四一)開會ノ期日。(規

四二)開會ノ時間。(規四三)議員ノ意見ヲ聞クヲ得。(規四四)報告。(規四五)審査期限。(規四六、四七)改選、再審査。(規四八)少數者意見ノ提出、同上説明。(規四九、五〇)會議錄。(規五一)分科、正副主査。「特別委員、委員會」(議二〇)ノ三、規五三)組織、選舉、同上委任。(議二二)開議定數(半數以上)。(議二三)議員ノ外傍聽ヲ禁ス、議員ノ傍聽ヲ禁スルヲ得。(議四六)大臣及政府委員ヘ開會ノ通知。(規五二)委員ノ數。(規五四)補關選舉。(規五五)連繫事件。(規五六)正副委員長互選、出席ノ首席委員互選事務ヲ行フ、開會ノ期日、同上時間、議員ノ意見諮問、報告、審査期限、改選、再審査、少數者意見ノ提出、同上説明、會議錄。「委員長、副委員長(常任特別)」(議二一、規三九)互選、出席ノ首席委員互選事務ヲ行フ。(議二四)經過及結果報告。(議四六)大臣及政府委員ヘ開會ノ通知。(議九五)ノ三)委員會ニ於ケル懲罰事犯處分ノ要求。(規一八)委員會ノ整理。(規二〇)終決權、討議權。(規四〇、五六)副委員長。(規四一)委員會ノ期日決定。(規四四)ノ一—三)報告。(規五〇)會議錄ノ署名又ハ記名捺印。(規九五)

一)報告ノ趣旨説明ノ爲數回ノ發言ヲ爲スヲ得。(規九七)ノ二)理由書又ハ報告書ヲ朗讀スルヲ得。(規一七八)懲罰事犯アルトキハ委員會ヲ中止スルヲ得。

繼續委員 (議一九)ノ四、繼一〇)手當。(議二五、繼一、二)設置。(繼

四)改選又ハ員數ノ増減。(繼五)設置ノ通知。(繼六)辭任。(繼七)闕員ノ補充。(繼八)必要ノ報告又ハ文書ノ要求。(繼九)後會マテニ審査ヲ終ラサレハ解任セラル。(議三五)議案ノ繼續。

分科、主査、副主査 「分科」(規五一)ノ一)。(豫四—六)豫算。(決二—

五)決算。「主査、副主査」(規五一)。(豫五、六)豫算。(決二、四、六)決算。**委員審査、付託** (議二八)政府ノ要求ニ依ル審査省略。(規七四)ノ

一、七四)ノ三)政府案、衆議院提案及議員提案ノ審査。(規一六)審査ノ權限。(規四五)審査期限。(規五五)連繫事件。(規四七、五六)再審査。(規一〇四)ノ二)討論終局後委員付託ノ動議ヲ提出スルヲ得。(議六三)請

願ノ審査。(規一四一)同審査順序。(規一四二)同時日ヲ限ル付託。(議九五)懲罰事犯ノ審査。(規一四五)不敬又ハ無禮ノ言辭アル辭表ハ懲罰委員ニ付ス。(規一二六、豫二一七、一四)豫算ノ審査。(規一二七)豫算中必要事項ニ付再審査。(決三一九)決算ノ審査。(資二、四、六、七、八、一一、一四ノ二)資格及選舉爭訟判決。(貴二、三、四、五、九、一〇ノ二)貴族院令五條三項ノ規定ニ依ル決議案ノ審査。
委員少數者意見 (規四八、五六)。

○會 議

通則 (憲四八)公開及秘密會。

開議、散會、延會、會議中止、議事中止 「開議」(憲四六)定數(三分以上)。(憲七三ノ二)憲法改正ノ會議定數(三分以上)。(規五七)開議ノ時刻。(規五九)開議ノ手續。「散會、延會」(議八八)議場騷擾ナルニ因ル延

會。(規五八)議事終了ニ因ル散會、午後四時ヲ過クルニ因ル延會。(規六〇)定足數ヲ闕クルニ因ル延會。(規八九)延會其ノ他ノ事由ニ因リ發言中止ノトキ後會ニ發言ノ繼續。「會議中止、議事中止」(議八八)議場騷擾ナルニ因ル會議中止。(規六四)議案ノ會議時刻ヲ定メタルニ因ル議事中止。(規一七七)懲罰事犯アルニ因ル會議中止。

議事日程 (議二六ノ一、規六一)議院へ報告。(議二六ノ二、規六一、六六、六八)調製、次序。(議四七、規六三)配、送付、官報掲載。(規二四ノ二)即時ニ開會セサル全院委員會ノ期日ハ議事日程ニ記載ス。(規一九ノ二)全院委員會ノ議事終局セサルトキハ次會ノ期日ヲ議事日程ニ記載ス。(規六五)議事日程ノ變更、追加。(規六七)衆議院ノ議ニ付シタル事件ハ議事日程ニ記載スルヲ得ス。

發議、動議 「發議」(議二九)議案並修正動議ノ發議(二十人以上)。(議三七)秘密會ノ發議(議長又ハ十人以上發議)。(規二三)全院委員會ヲ開クノ發議(議長又ハ十人以上發議)。

以上)。(規六九)法律案、上奏案、建議案、決議案ノ發議手續。(規七一)發議案ノ撤回。(規七三ノ一)發議者議案ノ説明。(規九五ノ二)同上ノ爲數回ノ發言ヲ爲スヲ得。(動議)(議二九)議案修正ノ動議(二十人以上)。(議四一)豫算案修正ノ動議(三十人以上)。(規一〇六)修正動議提出手續。(規一〇)修正動議ノ撤回。(議五〇)質問ノ件ニ付建議ノ動議。(議五二)上奏又ハ建議ノ動議(三十人以上)。(議五六ノ二)協議會成案ニ對シ修正ノ動議ヲ爲スヲ得ス。(議九八)懲罰ノ動議(二十人以上)。同提出期限(三日)。(規二六)全院委員會ニ於ケル動議(一人以上)。(規七〇)特別ノ規定ナキ動議(一人以上)。(規七五、八〇)讀會期日短縮ノ動議。(規七七)二讀會ニ於ケル修正動議。(規八二)三讀會ニ於ケル修正動議。(規九五ノ二)動議者ハ説明ノ爲數回ノ發言ヲ爲スヲ得。(規一〇二)討論終局ノ動議(二十人以上)。(規一〇四ノ二)委員討託ノ動議。(規一〇五)質疑終局ノ動議(二十人以上)。(規一七九)委員又ハ部員ノ懲罰動議提出權。(規一八〇)懲罰動議委員付託ノ表決ハ討論ヲ用キス。(繼三)繼續委員設置ノ動議(二十人以上)。(上贊成)。

讀會 (議二七)省略ノ要求。(規七二、七三)第二讀會。(規七四ノ二、七

四ノ三、七八)第二讀會。(規七九、八二)第三讀會。(規一二五)豫算ハ

三讀會ヲ經ルヲ要セス。(規一九七)衆議院回付案及協議會成案ハ三讀會

ヲ經ルヲ要セス。

朗讀 (規七三)第一讀會。(規七六)第二讀會。(規七九)第三讀會。(規

九七)意見書、引證文書、理由書、報告書ノ朗讀。(規一四八)請願者ノ朗讀。

發言 (憲五二)發言ニ付議員ノ特權。(憲五四、議四二)大臣及政府委

員ハ何時ニテモ發言スルヲ得。(議八〇、規九六、資二二ノ一、一四)資格

ニ付異議アル議員及懲罰事犯アリト告ケラレタル議員ハ發言ノ權ヲ失ハ

ス、數回ノ發言ヲ爲スヲ得。(議八七)議長ハ發言ヲ取消サシメ又ハ禁止

スルヲ得。(議九一)皇室ニ對シ不敬ノ言語ヲ爲スヲ得ス。(議九二)無禮

ノ語、他人ノ身上ニ涉ル言論ヲ爲スヲ得ス。(規八八)發言ノ開始、同終結。

(規八三、八五)通告。(規八六)通告ヲ爲ササル議員發言ノ許可。(規八

七)二人以上發言ヲ求ムル場合。(規八九)發言中止後ノ會議ニ於ケル發言ノ繼續。(規九〇、九一)發言ハ演壇ニ於テス但シ議長ノ許可アルトキ又ハ簡單ナル發言ハ其ノ席ニ於テス。(規九二)登壇發言ノ命。(規九四)發言ハ一回ニ及フヲ得ス、質疑應答及注意喚起ハ此ノ限ニ在ラス。(規九五)委員長、報告者、大臣、政府委員、發議者、動議者ハ數回ノ發言ヲ爲スヲ得。(規一〇〇)議員ヲ呼フニ敬稱ヲ用ウ。(規一〇三)討論再開ト看做ス發言。(規一一四ノ二)議決ニ付スヘキ問題宣告セラレタル後ハ發言スルヲ得ス。(規一二八)質問趣旨ノ説明、同上ニ對スル議員ノ意見禁止。(規一三三)取消ヲ命シタル發言ハ速記録ニ記載セス。

通告 (規八三―八五)。

演說 (議四二)大臣及政府委員ノ發言ハ議員ノ演說ヲ中止セス。(議九二)無禮ノ語、他人ノ身上ニ涉ル言論ヲ爲スヲ得ス。

討論 (規九三)議題外ニ涉ルヲ得ス。(規九八)議長討論ニ與ル場合ハ

副議長著席ス。(規九九)議長討論ニ與リタルトキハ表決マテ復席スルヲ得ス。(規一〇一)議長ハ討論終局ヲ宣告ス。(規一〇二)討論終局ノ動議(二十人以上)。(規一〇四ノ一)討論終局後修正案ノ議事。(規一〇四ノ二)討論終局後委員付託ノ動議。(規一〇三)大臣又ハ政府委員ノ發言ハ議事ヲ再開ス。(討論ヲ用キスシテ表決ニ付スヘキ場合)(議三八)祕密會ノ發議。(規六五)議事日程變更、追加ノ動議。(規七八)逐條審議ノ順序ニ關シ異議アルトキ。(規一一五)逐條審議ニ關スル規定ニ依リ討論ノ場合其ノ表決ニ付異議アルトキ。(規一〇二ノ一)討論終局ノ動議。(規一〇四ノ一)討論終局後修正案ニ付討論ヲ開クヘキヤ否ヤノ表決。(規一〇五)質疑終局ノ動議。(規一〇八ノ二)修正案表決ノ順序ニ付異議アルトキ。(規一三〇)議事録ニ關シ書記官長ノ答辯ニ服セス又ハ議長ノ處理ニ對シ異議アルトキ。(規一三四ノ二)速記録訂正ニ對シ異議アルトキ。(規一四八)請願書朗讀ノ要求アルトキ。(規一八〇)懲罰ノ動議。

質疑應答、注意喚起 (規九四)(規一〇五)質疑終局ノ動議。

報告 (議二四) 委員會經過及結果報告。(議二六ノ一、規六二) 議事日程ノ報告。(議四七) 報告ノ配、送付。(議六四、規一四五—一四七) 請願委員會報告。(規二八、二九) 全院委員會結果及經過報告。(規四四、四五、四六、四七、五六) 常任、特別委員會報告。(規五一ノ二) 主査ハ委員長報告ヲ補足スルヲ得。(規五九) 議長ノ事項報告。(規九五ノ一) 報告ノ趣旨説明ノ發言。(規九七ノ二) 報告書ノ朗讀。(規一九五) 衆議院ヨリ議案受領ノ報告。(規一九七、一九八) 協議會報告。(豫一) 豫算案受領ノ報告。(豫五、六) 豫算委員主査報告。(豫七、八) 豫算委員報告書。(豫一四) 豫算案整理報告。(決一) 決算受領ノ報告。(決四、六) 決算委員主査報告。(決八、九、一〇) 決算委員報告。(決一一) 決算會議ニ於テハ委員長ノ報告ヲ議題トス。(資七、八、九、一四) 資格及選舉爭訟判決報告。(貴五、七、八) 貴族院令五條三項ノ規定ニ依ル決議案審査報告。(繼二) 繼續委員設置ノ件報告。修正 (議二九) 修正動議(二十人以上)。(議三〇、五四) 政府案ノ修正。(議

四一) 豫算案修正動議(三十人以上)。(議五五ノ一) 修正案ノ回付。(議五六ノ二) 協議會成案ハ修正スルヲ得ス。(規七七) 第二讀會修正。(規一〇七) 委員會ノ修正ハ贊成者ヲ待タスシテ議題ト爲ス。(規八二) 第三讀會修正。(規一〇四ノ一) 討論終局後ノ修正。(規一〇六) 修正動議提出ノ手續。(規一〇八、一〇九) 數箇ノ修正案アル場合ニ表決ノ順序。(規一一〇) 修正動議ノ撤回、同上繼續。(規一一一) 修正案總テ否決ノ場合ハ原案ニ就キ採決ス。(規一九七) 回付案ヲ議スルハ三讀會ヲ要セス。(豫一五) 豫算案ノ回付。

表決 (通則) (憲四六、四七) 議院ノ議決(三分ノ一以上出席) 議長ノ終決權。(憲五二) 表決ニ付議員ノ特權。(憲七三ノ二) 憲法改正ノ議決。(三分ノ一以上) (議一二) 委員會ニ於テ議長ハ表決ノ數ニ入ラス。(規二〇一) 委員會ノ議決(過半) 委員長ノ終決權。(議二七) 讀會省略ノ議決(三分ノ一以上)。(貴九ノ二) 貴族院令五條三項ノ規定ニ依ル決議案ノ議決(三分ノ一以上)。(議四五) 大臣